

石鉢小学校長寿命化改修等工事 (14棟エアコン改修)特記仕様書

I. 工事概要

Table with 2 columns: 1. 工事場所 (青森県三戸郡階上町大字角橋折字石鉢14-2), 2. 敷地面積 (16,788.87㎡), 3. 工事種目 (校舎 鉄筋コンクリート造 2階建 (地下0階 塔屋0階) 改修 1棟, etc.), 4. 指定部分 (・有 ○無 対象部分 (指定部分工期 年 月 日)), 5. 工事範囲 (※「3. 工事種目」すべてを工事範囲とする。)

II. 建築改修工事仕様

Table with 2 columns: (1) 図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築改修工事標準仕様書 (建築工事編) 令和7年版 (以下「改修標準仕様書」という。)) 及び「公共建築工事標準仕様書 (建築工事編) 令和7年版 (以下「標準仕様書」という。)) によるほか、下記仕様書等のうち、○を付けたものを適用する。 (2) 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの特記仕様書を適用する。 (3) 本特記仕様書の表記 1) 項目は、○印の付いたものを適用する。 2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。 (4) 特記事項に記載の () 内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。 (5) []印は、「図等による環境物品等の調達に関する法律 (平成12年法律第100号)」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針 (令和4年2月25日閣内閣議決定)」に定める特定調達物品における判断の基準 (特定調達品目「公共工事」においては表1の品目ごとの判断の基準) を満たすものを示す。

Table with 2 columns: 1 各章共通事項, 2 仮設工事, 6 内装改修工事. 1 各章共通事項: 項目 (項目), 特記事項 (特記事項). 2 仮設工事: 項目 (項目), 特記事項 (特記事項). 6 内装改修工事: 項目 (項目), 特記事項 (特記事項).

Table with 2 columns: 2 仮設工事, 6 内装改修工事. 2 仮設工事: 項目 (項目), 特記事項 (特記事項). 6 内装改修工事: 項目 (項目), 特記事項 (特記事項).

Table with 2 columns: 2 仮設工事, 6 内装改修工事. 2 仮設工事: 項目 (項目), 特記事項 (特記事項). 6 内装改修工事: 項目 (項目), 特記事項 (特記事項).

・造作用単板積層材	・JAS 0701に基づく造作用単板積層材 [6.5.2]								
	施工箇所	品名	寸法 (mm)	表面の品質	防虫処理	間伐材等の適用			
					・適用する ・適用しない	・			
	・JAS 0701以外の造作用単板積層材								
	施工箇所	寸法 (mm)	表面の品質	含水率	防虫処理	間伐材等の適用			
				※14%以下	・適用する ・適用しない	・			
	・JAS 3079に基づく直交集成板								
	施工箇所	品名	強度等級	種別	接着性能 (使用環境)	樹種名	寸法 (mm)	間伐材等の適用	
	・合板等	・「合板の日本農林規格」による普通合板 [6.5.2]							
施工箇所		厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	間伐材等の適用		
		※5.5		※1類 ・2類	広葉樹 ※2等以上 ・1等 針葉樹 ※C-D以上	・適用する ・適用しない	・		
・「合板の日本農林規格」による構造用合板 [6.5.2]									
施工箇所		等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	厚さ (mm)	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用
		※2級以上 ・1級		※1類 ・特類	※C-D以上	※12	・適用する ・適用しない	・適用する () ・適用しない	・
・「合板の日本農林規格」による化粧化粧用合板 [6.5.2]									
施工箇所		厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用		
				・特類 ・1類	・適用する ・適用しない				
・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板 [6.5.2]									
施工箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ (mm)	接着の程度	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用			
			・1類 ・2類	・適用する ・適用しない					
・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板 [6.5.2]									
施工箇所	厚さ (mm)	接着の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用		
		・1類 ・2類			・適用する ・適用しない				
・パーティクルボード [6.5.2]									
施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ (mm)				
		※13タイプ	※P又はM		※15				
・JAS 0360に基づく構造用パネル									
施工箇所	寸法 (mm)								
・MDF [6.5.2]									
施工箇所	厚さ (mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分				

・接合具等	造作材の化粧面の釘打ち [6.5.3]		
	※隠し釘打ち ・釘頭埋め木 ・つぶし頭釘打ち ・釘頭隠し 諸金物 ※かすがい、座金、箱金物、短冊金物 (改修標準仕様書表6.5.3~5に示す程度の市販品 表8.20.1のF種程度) ・ (形状: 寸法: 材質:)		
	・接着剤	接着剤のホルムアルデヒド放散量 [6.5.3.4]	
		※F☆☆☆☆	
		・	
	・防腐・防蟻処理	・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理 [6.5.5]	
		適用部材	保存処理性能区分
		・K2 ・K3 ・K4	
	・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理		
	適用部材	処理の方法	薬剤の種類
	※薬剤の製造所の仕様による	※JIS K 1571に適合又は同等品	
・内部間仕切軸組及び床組み	・薬剤の接着材への混入による防腐・防蟻処理		
	適用部位 ()		
	・合板等の加圧注入処理等の適用 適用部位 ()		
・窓、出入口その他	・間仕切軸組に用いる木材の樹種名 (製材を用いる場合) [6.5.6]		
	※杉又は松		
	・床組に用いる木材の樹種名 (製材を用いる場合) ※杉又は松		
○軽量鉄骨天井下地	・窓、出入口その他に用いる木材の樹種名 (製材を用いる場合) [6.5.7]		
	※吊元枠、水掛りの下枠及び敷居はひのき、その他は松又は杉		
	野縁等の種類 [6.6.2~4]		
屋外		※25形 ・19形	
屋内		※19形 ・25形	
屋外の形式及び寸法		野縁受、つりボルト及びビーンサートの間隔 ・図示による 周辺部の端からの間隔 ・図示による 野縁の間隔 ・図示による 既存の埋込みインサート ・使用する ○使用しない あと施工アンカーの施工後の確認試験 ○行う 試験箇所数 ※屋内の場合、当該階において3箇所 ()箇所 引張試験にて確認する強度 ※吊りボルト受け等の間隔が900mm程度以下かつ 天井面積構成部材等の単位面積あたりの 質量が20kg/m ² 以内の天井の場合は400N程度 ()N ・行わない ・つりボルトの間隔が900mmを超える場合 (補強方法 ※図示による) ・天井のふところが3.0mを超える場合 (補強方法 ※図示による) ・天井下地材における耐震性を考慮した補強 (補強箇所 ※図示による) (補強方法 ※図示による)	
・軽量鉄骨壁下地	スタッド、ランナの種類 [6.7.3.4] [表6.7.1]		
	※改修標準仕様書表6.7.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類 ・図示による		
	スタッドの高さが5.0mを超える場合 ※図示による 出入口及びこれに準ずる開口部の補強 ※改修標準仕様書6.7.4(5)による		
○ビニル床シート [6.8.2.3]			
種類の記号	色柄	厚さ (mm)	備考
※FS (複層ビニル床シート)	○無地 ・マーブル柄 ・柄物	※2.0	
接合部の処理 ※熱溶接工法			

・ビニル床タイル	種類の記号				色柄	寸法 (mm)	厚さ (mm)	備考
	※KT (ノン・シヨビニル床タイル)				・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450	※2.0 ・3.0	
	・TT (単層ビニル床タイル)				・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450	・2.0 ・	
	・FT (複層ビニル床タイル)				・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450	・2.0 ・2.5 ・3.0	
	・FOA (置敷きビニル床タイル)				・無地 ・柄物	・500×500	・4.0 ・	
	・FOB (薄型置敷きビニル床タイル)				・無地 ・柄物	・	・	
	・帯電防止床シート [6.8.2]				種類 () 性能 () 厚さ (mm) ()			
	・帯電防止床タイル				種類 () 性能 () 寸法 (mm) () × () 厚さ (mm) ()			
	・視覚障害者用床タイル				視覚障害者誘導用ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列はJIS T 9251による。			
	種類 () 形状 ()							
・耐動荷重性床シート				種類 () 厚さ (mm) ()				
・防汚性床シート				種類 () 厚さ (mm) ()				
・防汚性床タイル				種類 () 寸法 (mm) () × () 厚さ (mm) ()				
○ビニル幅木 [6.8.2]				材質の種類 ○軟質 ・硬質 高さ (mm) ※60 ○75 ・100 厚さ (mm) ※1.5以上				
・ゴム床タイル [6.8.2]				種類 ・単層品 ・積層品 色柄 () 厚さ (mm) ・3.0 ・4.5 ・6.0 ・9.0 寸法 (mm) () × ()				
・カーペット敷き [6.9.2.3] [表6.9.1]				・織じゅうたん [6.9.2.3] [表6.9.1]				
織り方		バイル形状		備考 (参考価格)				
・ウィルトンカーペット		・カットバイル						
・ダブルフェースカーペット		・ループバイル						
・アキスミスターカーペット		・カット/ループバイル						
色柄				・模様のない無地 ・				
バイル糸の織種等 ※無地の織りじゅうたんの種別 (・A種 ・B種 ・C種)								
帯電性 ・適用する ・適用しない								
織じゅうたんの接合方法 ※ヒートボンド工法 ・つづり縫い								
下敷き材 ※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種1号 呼び厚さ 8mm								
・タフテッドカーペット								
バイル形状	呼び長さ (mm)	工法	帯電性	備考 (参考価格)				
・カットバイル	・5~7	・全面接着工法	・適用する					
・ループバイル	・4~6	・トリプル工法	・適用しない					
・カット、ループ併用	・	・	・					
下敷き材 (グリッパー工法の場合) ※反毛フェルト (JIS L 3204) の第212号 呼び厚さ 8mm								
タフテッドカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆								

・タイルカーペット	バイルの形状					種類	施工箇所	寸法 (mm)	総厚さ (mm)	備考 (参考価格)
	※ループバイル					※第一種 ・第二種		※500×500	※6.5	
	・カットバイル					・第一種 ・第二種		※500×500	※6.5	
	・カット・ループ併用					・第一種 ・第二種		※500×500	※6.5	
	タイルカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・模様流し ・									
	階段部分 ※模様流し ・市松敷き ・									
	見切り、押え金物 材質 () 種類 () 形状等 ※図示による									
	・合成樹脂塗床 [6.10.2.3]									
	種別	施工箇所	工法	仕上げの種類						
	・厚膜型塗床材 弾性かつ樹脂系塗床			※平滑仕上げ ・防汚仕上げ ・つや消し仕上げ						
・厚膜型塗床材 E ¹ 樹脂系塗床		・薄膜流しのペ工法 ・厚膜流しのペ工法 ・樹脂E ¹ 工法	・平滑仕上げ ・防汚仕上げ							
・薄膜型塗床材			※平滑仕上げ							
塗床材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆										
・フローリング張り [6.11.2~6]										
フローリングのホルムアルデヒドの放散量等 ※改修標準仕様書6.11.2(2)による										
各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆										
・単層フローリング (フローリングボード1等)										
工法 ・釘留め工法 (・根太張り ・直張り) ・接着工法										
樹種 ※なら 間伐材等の適用 ・適用する ・適用しない										
・単層フローリング (フローリングブロック1等)										
樹種 ・ 厚さ (mm) ・ 大きさ ・ 間伐材等の適用 ・適用する ・適用しない										
・複合フローリング 工法 ・釘留め工法 (・根太張り ・直張り) ・接着工法										
樹種 ※なら 種別 ・A種 ・B種 ・C種 間伐材等の適用 ・適用する ・適用しない										
接着工法の場合の不陸緩和材 ※合成樹脂発泡シート ・ ・現場塗装仕上げ ※ウレタン樹脂ワニス塗り ・オルステインの上、ワックス塗り ・生地のままワックス塗り										
・畳敷き [6.12.2]										
種別	A種 ・B種 ・C種 ・D種 (畳床: ・KT-I ・KT-II ・KT-III ・KT-K ・KT-N)									
下地の種類 ・標準仕様書表12.6.1による床組 ・ポリスチレンフォーム床下地 (ノンフロン [6.12.2]) ・										
畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発生が極めて少ない材料を使用したものとする。 衝撃緩和型畳 (畳表: ・G1 ・G2)										

Table with 2 columns: Material/Component and Specifications. Includes sections for MDF, wood-based panels, acoustic panels, and ceiling boards.

Table with 2 columns: Material/Component and Specifications. Includes sections for wall paper, plaster, tiles, and floor tiles.

Table with 2 columns: Material/Component and Specifications. Includes sections for fireproofing, wall treatments, and floor treatments.

Table with 2 columns: Material/Component and Specifications. Includes sections for materials, floor adjustments, and wall treatments.

Table with 2 columns: Material/Component and Specifications. Includes sections for paint materials, floor adjustments, and wall treatments.

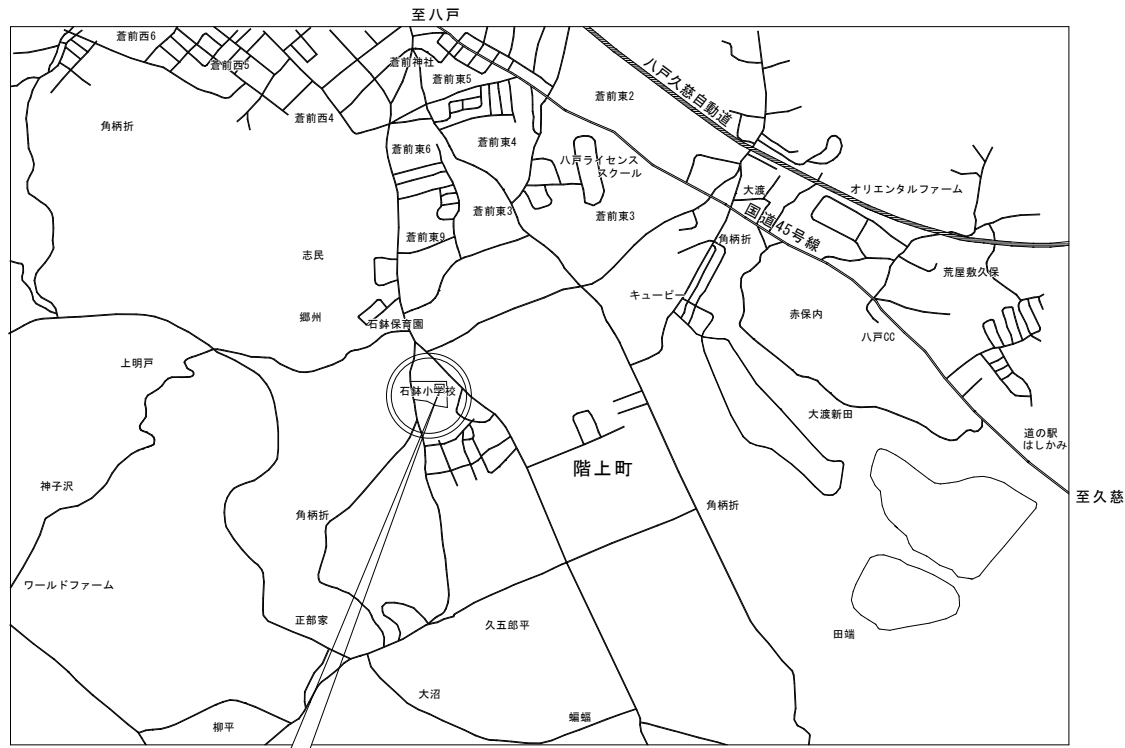
Table with 2 columns: Material/Component and Specifications. Includes sections for floor adjustments and wall treatments.

Table with 2 columns: Material/Component and Specifications. Includes sections for floor adjustments and wall treatments.

<p>鋼杭地業 (4.2.2)(4.4.3)~(4.4.6)</p> <p>鋼杭の材料</p> <p>杭の種類、寸法、継手等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>種類</th> <th>杭径 (mm)</th> <th>板厚 (mm)</th> <th>杭長 (mm)</th> <th>継手数</th> <th>w/t数</th> <th>長期設計支持力 (kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">試験杭</td> <td>上杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">本杭</td> <td>上杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>特定埋込杭工法</p> <ul style="list-style-type: none"> H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式で$\alpha=250$を採用できる工法 H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式のうちα、β、γが以下の値を採用できる工法 <p>$\alpha = ()$、$\beta = ()$、$\gamma = ()$</p> <p>工法</p> <p>試験杭</p> <p>試験杭の位置</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による() <p>杭の支持層への掘入れ長さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ※評定等の評価内容による <p>杭の精度</p> <p>水平方向の位置ずれ</p> <ul style="list-style-type: none"> ※評定等の評価内容による <p>建込み時の杭の鉛直度</p> <ul style="list-style-type: none"> ※評定等の評価内容による <p>杭の継手の工法</p> <ul style="list-style-type: none"> アーク溶接継手 形状 <ul style="list-style-type: none"> JIS A 5525による 溶接材料 <ul style="list-style-type: none"> 標準仕様書 7.2.5(1)(2)による 機械式継手 工法 <ul style="list-style-type: none"> ※評定等を受けた工法 <p>杭頭の中詰め材料</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎のコンクリートと同調合のもの <p>杭施工に伴う発生汚泥の処理</p> <ul style="list-style-type: none"> 場内で固化処理した後に搬出 <p>鋼杭地業 (4.2.2)(4.5.1)(4.5.4)~(4.5.6)</p> <p>アースドリル工法 (安定液 ※使用する ・使用しない)</p> <ul style="list-style-type: none"> リバー工法 オールケーシング工法 (孔内の水張り ・行う ・行わない) <p>併用する工法</p> <ul style="list-style-type: none"> 場所打ち鋼管コンクリート杭工法 鋼管巻き材料 <ul style="list-style-type: none"> SKK400 ・SKK490 拡底杭工法 (安定液 ・使用する ・使用しない) <p>寸法等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>軸径 (mm)</th> <th>拡底径 (mm)</th> <th>杭長 (mm)</th> <th>w/t数</th> <th>長期設計支持力 (kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>試験杭</p> <p>試験杭の位置</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による() <p>孔壁の保持状況 (配筋測定)</p> <p>測定箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> 試験杭()箇所及び本杭()箇所 <p>杭の支持層への掘入れ長さ</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による() <p>杭の精度</p> <p>水平方向の位置ずれ</p> <ul style="list-style-type: none"> 杭径の1/4かつ100mm以下 ・評定等の評価内容による <p>建込み時の杭の鉛直度</p> <ul style="list-style-type: none"> 1/100以内 ・評定等の評価内容による 		種類	杭径 (mm)	板厚 (mm)	杭長 (mm)	継手数	w/t数	長期設計支持力 (kN/本)	備考	試験杭	上杭								中杭								下杭								本杭	上杭								中杭								下杭									軸径 (mm)	拡底径 (mm)	杭長 (mm)	w/t数	長期設計支持力 (kN/本)	備考	試験杭							本杭							<p>鉄筋の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類の記号</th> <th>呼び径 (mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SD295</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>SD345</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>帯筋の加工及び組立</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による() <p>鉄筋の最小かぶり厚さ</p> <ul style="list-style-type: none"> 100mm <p>鉄筋かごの補強</p> <ul style="list-style-type: none"> - <p>組み立てた鉄筋の節ごとの継手</p> <ul style="list-style-type: none"> ※重ね継手 重ね継手の長さ ・図示による() <p>主筋の基礎底盤への定着長さ</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による() <p>セメントの種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ※高炉セメントB種[G] <p>コンクリートの設計基準強度</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による() <p>コンクリートの種別</p> <ul style="list-style-type: none"> A種 ・B種 ・評定等の評価内容による <p>スランプ</p> <ul style="list-style-type: none"> 15cm ・21cm <p>構造体強度補正值</p> <ul style="list-style-type: none"> 3N/? ・評定等の評価内容による <p>材料</p> <p>砂利 ○再生クラッシュラン[G] ・切込砂利又は切込砕石</p> <p>範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎下、基礎梁下、土間スラブ下、土間コンクリート下 図示による() <p>厚さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ※60mm <p>範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎下、基礎梁下、土間スラブ下 ・図示による() <p>厚さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ※50mm <p>設計基準強度</p> <ul style="list-style-type: none"> ※18N/mm <p>スランプ</p> <ul style="list-style-type: none"> ※15cm又は18cm <p>材料</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上 <p>範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> 建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ピット下を除く) <p>種類及び施工法等</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による() <p>形状等</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による() <p>支持地盤</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による() <p>型枠使用の有無</p> <ul style="list-style-type: none"> 無し 有り 型枠の使用箇所等は図示による() 	種類の記号	呼び径 (mm)	備考	SD295			SD345			-			<p>○ 砂利地業 (4.6.2)(4.6.3)</p> <p>○ 流コンクリート地業 (4.6.4)</p> <p>床下防湿層 (4.6.2)(4.6.5)</p> <p>地盤改良工法</p> <p>置換コンクリート地業 (ラップルコンクリート地業)</p> <p>5 鉄筋工事 (5.2.1)</p> <p>鉄筋の種類等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類の記号</th> <th>呼び径 (mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SD295</td> <td>D10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>鉄線の形状等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>種類の記号</th> <th>鉄線の形状、綱目寸法、鉄線の径 (mm)</th> <th>使用部位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>溶接金網</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋格子</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>鉄筋の継手の方法等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部位</th> <th>継手の方法</th> <th>呼び径 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柱、梁の主筋</td> <td>ガス圧接 ・機械式継手 溶接継手 ・重ね継手</td> <td>D19以上</td> </tr> <tr> <td>耐力壁の鉄筋</td> <td>重ね継手</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他の鉄筋()</td> <td>○重ね継手</td> <td>D13下</td> </tr> </tbody> </table> <p>継手位置</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図示による (構造関係共通事項 (配筋標準図) 5.1. 6.1. 7.1. 7.3. 8.1) <p>柱及び梁主筋の重ね継手の長さ</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による (構造関係共通事項 (配筋標準図) 3.1(a)(2)及び表3.1) <p>耐力壁の重ね継手の長さ</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による (構造関係共通事項 (配筋標準図) 3.1(a)(2)及び表3.1) 	種類の記号	呼び径 (mm)	備考	SD295	D10		-			-			-			種類	種類の記号	鉄線の形状、綱目寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位	溶接金網				鉄筋格子				部位	継手の方法	呼び径 (mm)	柱、梁の主筋	ガス圧接 ・機械式継手 溶接継手 ・重ね継手	D19以上	耐力壁の鉄筋	重ね継手		その他の鉄筋()	○重ね継手	D13下	<p>○ 鉄筋の定着 (5.3.4)</p> <p>鉄筋の定着長さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図示による() <p>機械式定着工法</p> <ul style="list-style-type: none"> 適用する 適用箇所 <ul style="list-style-type: none"> 図示による() 種類 <ul style="list-style-type: none"> 摩擦圧接接合 ・螺合グラウト固定 底合グラウト固定 工法 <ul style="list-style-type: none"> ※第三者機関の評定等を取得している工法とする 必要定着長さ <ul style="list-style-type: none"> ※評定等の評価内容による 補強筋形状 <ul style="list-style-type: none"> ※評定等の評価内容による かぶり厚さ <ul style="list-style-type: none"> ※評定等の評価内容による 品質確認 <ul style="list-style-type: none"> ※評定等の評価内容による 検査 <ul style="list-style-type: none"> ※評定等の評価内容による <p>○鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (5.3.5)</p> <p>最小かぶり厚さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図示による (構造関係共通事項 (配筋標準図) 4.1表4.1) <p>軽量コンクリートを適用する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> あり 適用箇所() 最小かぶり厚さに加える厚さ ()mm <p>耐久性上不利な箇所がある場合 (塩害等を受けるおそれのある部分等)</p> <ul style="list-style-type: none"> あり 適用箇所() 最小かぶり厚さに加える厚さ ()mm <p>各部配筋 (5.3.7)</p> <p>各部配筋</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による (構造関係共通事項 (配筋標準図)) <p>ガス圧接継手 (5.4.10)</p> <p>圧接完了後の圧接部の試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ※超音波探傷試験 引張試験 試験方法等 ※標準仕様書5.4.10(f)(b)①~⑥による <p>機械式継手 (5.5.3)(5.5.5)</p> <p>適用箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による() <p>H12建告第1463号に適合する性能</p> <ul style="list-style-type: none"> A級 <p>種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ねじ式鉄筋継手 充填方式 <ul style="list-style-type: none"> 無機グラウト方式 ・有機グラウト方式 継部ねじ加工継手 モルタル充填式継手 <p>工法</p> <ul style="list-style-type: none"> ※第三者機関の評定等を取得している工法 <p>鉄筋相互のあき</p> <ul style="list-style-type: none"> ※評定等の評価内容による <p>品質の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ※評定等の評価内容による <p>検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ※評定等の評価内容による <p>施工完了後の継手部の試験</p> <ul style="list-style-type: none"> 外観試験 試験対象 <ul style="list-style-type: none"> ※全数 試験項目 <ul style="list-style-type: none"> 評定等の評価内容による 試験方法 <ul style="list-style-type: none"> 評定等の評価内容による 超音波測定試験 試験対象 <ul style="list-style-type: none"> 抜取り ロット 1組の作業班が1日に行った継手箇所、最大200箇所程度とする。 試験の箇所数 <ul style="list-style-type: none"> 1ロットに対して()箇所 全数 試験項目 <ul style="list-style-type: none"> ※挿入長さ 試験方法 <ul style="list-style-type: none"> ※JIS Z 3064 (鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定方法及び判定基準)による 不合格となった場合の措置 <p>溶接継手 (5.6.3)(5.6.5)</p> <p>適用箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による() <p>H12建告第1463号に適合する性能</p> <ul style="list-style-type: none"> A級 <p>溶接継手の工法</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による() <p>鉄筋相互のあき</p> <ul style="list-style-type: none"> 標準仕様書5.3.5(4)による 評定等の評価内容による 図示による() 	<p>6 コンクリート工事</p> <p>○ コンクリートの種類 (6.2.1)</p> <p>コンクリートの種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ※I類 (JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート) II類 (JIS A 5308に適合したコンクリート) <p>○ コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等 (6.2.1)~(6.2.4)(6.3.2)(6.10.1)(6.10.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設計基準強度 (N/mm²)</th> <th>スランプ (cm)</th> <th>気乾単位容積質量 (t/m³)</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○Q24</td> <td>※標準仕様書表6.2.2による</td> <td>○Q2.3程度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>構造体強度補正值 ※標準仕様書表6.3.2による</p> <p>軽量コンクリート</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設計基準強度 (N/mm²)</th> <th>スランプ (cm)</th> <th>気乾単位容積質量 (t/m³)</th> <th>種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>※ 21</td> <td>-</td> <td>1種・2種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>構造体強度補正值 ※標準仕様書表6.3.2による</p> <p>○ セメント (6.3.1)</p> <p>種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 (普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g 以下、かつ28日目で402J/g 以下のものとする) 適用箇所() 高炉セメントB種[G] 適用箇所() フライアッシュセメントB種[G] 適用箇所() <p>○ 骨材 (6.3.1)</p> <p>アルカリシカ反応性による区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ※A ・B <p>○ 混和材料 (6.3.1)</p> <p>○混和剤</p> <ul style="list-style-type: none"> 混和剤の種類 <ul style="list-style-type: none"> ※標準仕様書 6.3.1(4)(a)による 混和材 <ul style="list-style-type: none"> 混和材の種類 <ul style="list-style-type: none"> ※標準仕様書 6.3.1(4)(b)による <p>寒中コンクリート (6.11.1)(6.11.2)</p> <p>暑中コンクリート (6.12.2)</p> <p>マスコンクリート (6.13.1)(6.13.2)</p> <p>適用箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による() <p>セメントの種類</p> <ul style="list-style-type: none"> 普通ポルトランドセメント 中熱ポルトランドセメント 低熱ポルトランドセメント 高炉セメントB種[G] フライアッシュセメントB種[G] シリカセメント <p>混和材料</p> <ul style="list-style-type: none"> 混和剤 混和剤の種類 <ul style="list-style-type: none"> ※標準仕様書 6.13.2(2)(7)による 混和材 <ul style="list-style-type: none"> 混和材の種類 <ul style="list-style-type: none"> ※標準仕様書 6.13.2(2)(4)による <p>スランプ</p> <ul style="list-style-type: none"> ※15cm <p>構造体強度補正值</p> <ul style="list-style-type: none"> ※標準仕様書表6.13.1による 	設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ (cm)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	適用箇所	○Q24	※標準仕様書表6.2.2による	○Q2.3程度		-	-	-		-	-	-		設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ (cm)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	種類	適用箇所	-	※ 21	-	1種・2種		-	-	-			-	-	-			<p>施工完了後の溶接部の試験</p> <ul style="list-style-type: none"> 外観試験 試験対象 <ul style="list-style-type: none"> ※全数 試験項目 <ul style="list-style-type: none"> 評定等の評価内容による 試験方法 <ul style="list-style-type: none"> 評定等の評価内容による 超音波探傷試験 試験対象 <ul style="list-style-type: none"> 抜取り ロット 1組の作業班が1日に行った溶接箇所、最大200箇所程度とする。 試験の箇所数 <ul style="list-style-type: none"> 1ロットに対して()箇所 全数 試験項目 <ul style="list-style-type: none"> ※内部欠陥の検出 試験方法 <ul style="list-style-type: none"> ※JIS Z 3063 (鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波測定方法及び判定基準)による 不合格となった場合の措置 <p>コンクリートの種類 (6.2.1)</p> <p>コンクリートの種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ※I類 (JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート) II類 (JIS A 5308に適合したコンクリート) <p>○ コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等 (6.2.1)~(6.2.4)(6.3.2)(6.10.1)(6.10.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設計基準強度 (N/mm²)</th> <th>スランプ (cm)</th> <th>気乾単位容積質量 (t/m³)</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○Q24</td> <td>※標準仕様書表6.2.2による</td> <td>○Q2.3程度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>構造体強度補正值 ※標準仕様書表6.3.2による</p> <p>軽量コンクリート</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設計基準強度 (N/mm²)</th> <th>スランプ (cm)</th> <th>気乾単位容積質量 (t/m³)</th> <th>種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>※ 21</td> <td>-</td> <td>1種・2種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>構造体強度補正值 ※標準仕様書表6.3.2による</p> <p>○ セメント (6.3.1)</p> <p>種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 (普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g 以下、かつ28日目で402J/g 以下のものとする) 適用箇所() 高炉セメントB種[G] 適用箇所() フライアッシュセメントB種[G] 適用箇所() <p>○ 骨材 (6.3.1)</p> <p>アルカリシカ反応性による区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ※A ・B <p>○ 混和材料 (6.3.1)</p> <p>○混和剤</p> <ul style="list-style-type: none"> 混和剤の種類 <ul style="list-style-type: none"> ※標準仕様書 6.3.1(4)(a)による 混和材 <ul style="list-style-type: none"> 混和材の種類 <ul style="list-style-type: none"> ※標準仕様書 6.3.1(4)(b)による <p>寒中コンクリート (6.11.1)(6.11.2)</p> <p>暑中コンクリート (6.12.2)</p> <p>マスコンクリート (6.13.1)(6.13.2)</p> <p>適用箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> 図示による() <p>セメントの種類</p> <ul style="list-style-type: none"> 普通ポルトランドセメント 中熱ポルトランドセメント 低熱ポルトランドセメント 高炉セメントB種[G] フライアッシュセメントB種[G] シリカセメント <p>混和材料</p> <ul style="list-style-type: none"> 混和剤 混和剤の種類 <ul style="list-style-type: none"> ※標準仕様書 6.13.2(2)(7)による 混和材 <ul style="list-style-type: none"> 混和材の種類 <ul style="list-style-type: none"> ※標準仕様書 6.13.2(2)(4)による <p>スランプ</p> <ul style="list-style-type: none"> ※15cm <p>構造体強度補正值</p> <ul style="list-style-type: none"> ※標準仕様書表6.13.1による 	設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ (cm)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	適用箇所	○Q24	※標準仕様書表6.2.2による	○Q2.3程度		-	-	-		-	-	-		設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ (cm)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	種類	適用箇所	-	※ 21	-	1種・2種		-	-	-			-	-	-		
	種類	杭径 (mm)	板厚 (mm)	杭長 (mm)	継手数	w/t数	長期設計支持力 (kN/本)	備考																																																																																																																																																																																																								
試験杭	上杭																																																																																																																																																																																																															
	中杭																																																																																																																																																																																																															
	下杭																																																																																																																																																																																																															
本杭	上杭																																																																																																																																																																																																															
	中杭																																																																																																																																																																																																															
	下杭																																																																																																																																																																																																															
	軸径 (mm)	拡底径 (mm)	杭長 (mm)	w/t数	長期設計支持力 (kN/本)	備考																																																																																																																																																																																																										
試験杭																																																																																																																																																																																																																
本杭																																																																																																																																																																																																																
種類の記号	呼び径 (mm)	備考																																																																																																																																																																																																														
SD295																																																																																																																																																																																																																
SD345																																																																																																																																																																																																																
-																																																																																																																																																																																																																
種類の記号	呼び径 (mm)	備考																																																																																																																																																																																																														
SD295	D10																																																																																																																																																																																																															
-																																																																																																																																																																																																																
-																																																																																																																																																																																																																
-																																																																																																																																																																																																																
種類	種類の記号	鉄線の形状、綱目寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位																																																																																																																																																																																																													
溶接金網																																																																																																																																																																																																																
鉄筋格子																																																																																																																																																																																																																
部位	継手の方法	呼び径 (mm)																																																																																																																																																																																																														
柱、梁の主筋	ガス圧接 ・機械式継手 溶接継手 ・重ね継手	D19以上																																																																																																																																																																																																														
耐力壁の鉄筋	重ね継手																																																																																																																																																																																																															
その他の鉄筋()	○重ね継手	D13下																																																																																																																																																																																																														
設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ (cm)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	適用箇所																																																																																																																																																																																																													
○Q24	※標準仕様書表6.2.2による	○Q2.3程度																																																																																																																																																																																																														
-	-	-																																																																																																																																																																																																														
-	-	-																																																																																																																																																																																																														
設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ (cm)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	種類	適用箇所																																																																																																																																																																																																												
-	※ 21	-	1種・2種																																																																																																																																																																																																													
-	-	-																																																																																																																																																																																																														
-	-	-																																																																																																																																																																																																														
設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ (cm)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	適用箇所																																																																																																																																																																																																													
○Q24	※標準仕様書表6.2.2による	○Q2.3程度																																																																																																																																																																																																														
-	-	-																																																																																																																																																																																																														
-	-	-																																																																																																																																																																																																														
設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ (cm)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	種類	適用箇所																																																																																																																																																																																																												
-	※ 21	-	1種・2種																																																																																																																																																																																																													
-	-	-																																																																																																																																																																																																														
-	-	-																																																																																																																																																																																																														

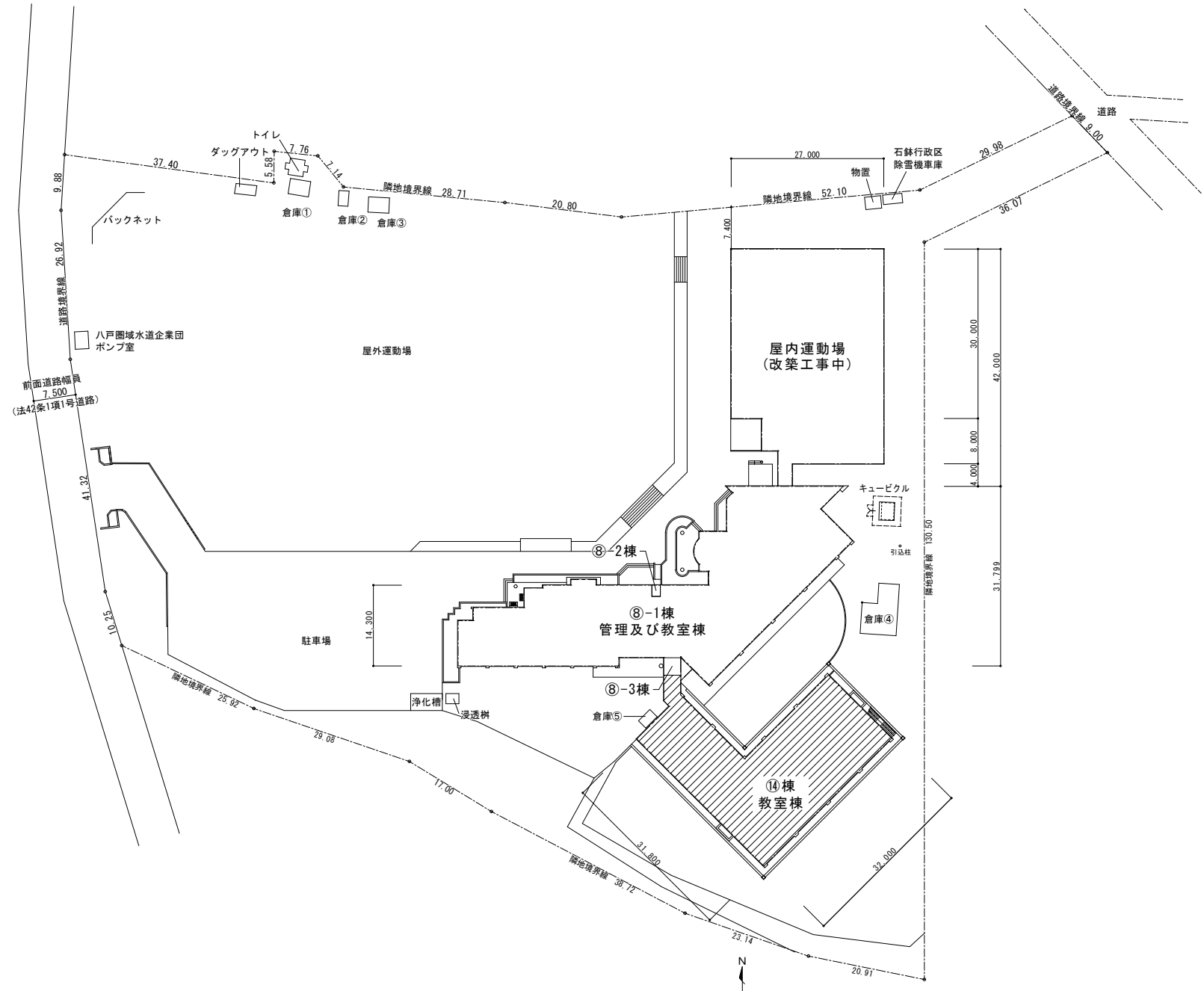
<p>1 級建築士事務所 青森県知事登録 第A1-761号</p> <p>有限会社 津内口設計</p> <p>青森県八戸市内丸2丁目1-16 TEL. 0178-70-5670 FAX. 0178-70-5671</p>	<p>特記</p>	<p>凡例</p>	<p>石鈴小学校校長寿命化改修等工事 (14棟エアコン改修)</p> <p>改修特記仕様書(4)</p> <p>管理建築士 1級建築士 第213191号 長岡 剛 建築(総合) A-04</p>
--	-----------	-----------	---

<p>○ 無筋コンクリート</p> <p>・ 流動化コンクリート</p> <p>・ 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地</p> <p>○ 構造体コンクリートの仕上り</p> <p>・ 打増し厚さ(打放し仕上げ部)</p> <p>○ 型枠</p> <p>・ 床型枠用鋼製デッキプレートの梁側面の打増し処理</p> <p>・ コンクリートの単位水量測定</p>	<p>(6.14.1)</p> <p>コンクリートの種類 ※普通コンクリート セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は フライアッシュセメントA種 ・高炉セメントB種 [G] ・フライアッシュセメントB種 [G] 設計基準強度 ※18N/cm² スランプ ※15cm又は40cm 適用箇所 ※標準仕様書 6.14.1(4)(7)～(8)による</p> <p>(6.15.1)</p> <p>適用箇所 ・図示による()</p> <p>(6.6.4)(6.8.1)(9.7.3)</p> <p>打継ぎの位置 ※標準仕様書6.6.4(1)による ・図示による() ・打設翌日に打ち継ぎ面を1mm程度ワイヤブラシで剛りレイタンスを除去し、次回打設当日は直前に打継ぎ面にセメントペーストを塗って打ち継ぎ締固め、約3時間後に振動を与えて再び締固めを行いコールドジョイントを防止すること。(強度比約100%) 目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(1)(7)による ○図示による() ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法 ・図示による()</p> <p>(6.2.5)</p> <p>合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○A種</td> <td>基礎立上り</td> </tr> <tr> <td>・B種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>コンクリートの仕上りの平たんさ(柱・梁・壁)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・a種</td> <td>化粧打ち放しコンクリート、塗装仕上げ、壁紙張り、接着剤による陶磁器質タイル張り</td> </tr> <tr> <td>・b種</td> <td>仕上塗材塗り</td> </tr> <tr> <td>・c種</td> <td>セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り、モルタル塗り、顔料下地</td> </tr> </tbody> </table> <p>コンクリートの仕上りの平たんさ(床)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・a種</td> <td>合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、コンクリート直均し仕上げ、フリーアクセスフロア(置敷式)</td> </tr> <tr> <td>・b種</td> <td>カーペット張り、防水下地、セルフレベルング材塗り</td> </tr> <tr> <td>・c種</td> <td>タイル張り、モルタル塗り、二重床</td> </tr> </tbody> </table> <p>(6.8.1)</p> <p>・打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る) ・20mm ・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る) ・10mm ・20mm</p> <p>(6.8.2)</p> <p>せき板の材料及び厚さ ○合板(※12mm) [G] ・断熱材を兼用した型枠材 使用箇所 ・図示による() 性能 熱抵抗値を0.73m²・K/W以上を有するもの ・MCR工法用シート 適用箇所 ・図示による() 打増し厚さ ・20mm 打増し範囲 ・図示による() スリーブの材種・規格等 ・図示による()</p> <p>(6.5.1)</p> <p>実施要領 ※図示による(構造関係共通図(構造関係共通事項))</p>	種 別	適用箇所	○A種	基礎立上り	・B種		・C種		種 別	適用箇所	・a種	化粧打ち放しコンクリート、塗装仕上げ、壁紙張り、接着剤による陶磁器質タイル張り	・b種	仕上塗材塗り	・c種	セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り、モルタル塗り、顔料下地	種 別	適用箇所	・a種	合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、コンクリート直均し仕上げ、フリーアクセスフロア(置敷式)	・b種	カーペット張り、防水下地、セルフレベルング材塗り	・c種	タイル張り、モルタル塗り、二重床											
種 別	適用箇所																																			
○A種	基礎立上り																																			
・B種																																				
・C種																																				
種 別	適用箇所																																			
・a種	化粧打ち放しコンクリート、塗装仕上げ、壁紙張り、接着剤による陶磁器質タイル張り																																			
・b種	仕上塗材塗り																																			
・c種	セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り、モルタル塗り、顔料下地																																			
種 別	適用箇所																																			
・a種	合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、コンクリート直均し仕上げ、フリーアクセスフロア(置敷式)																																			
・b種	カーペット張り、防水下地、セルフレベルング材塗り																																			
・c種	タイル張り、モルタル塗り、二重床																																			

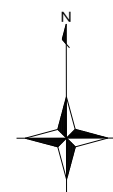


工事場所：青森県三戸郡階上町大字角柄折字石鉢14-2

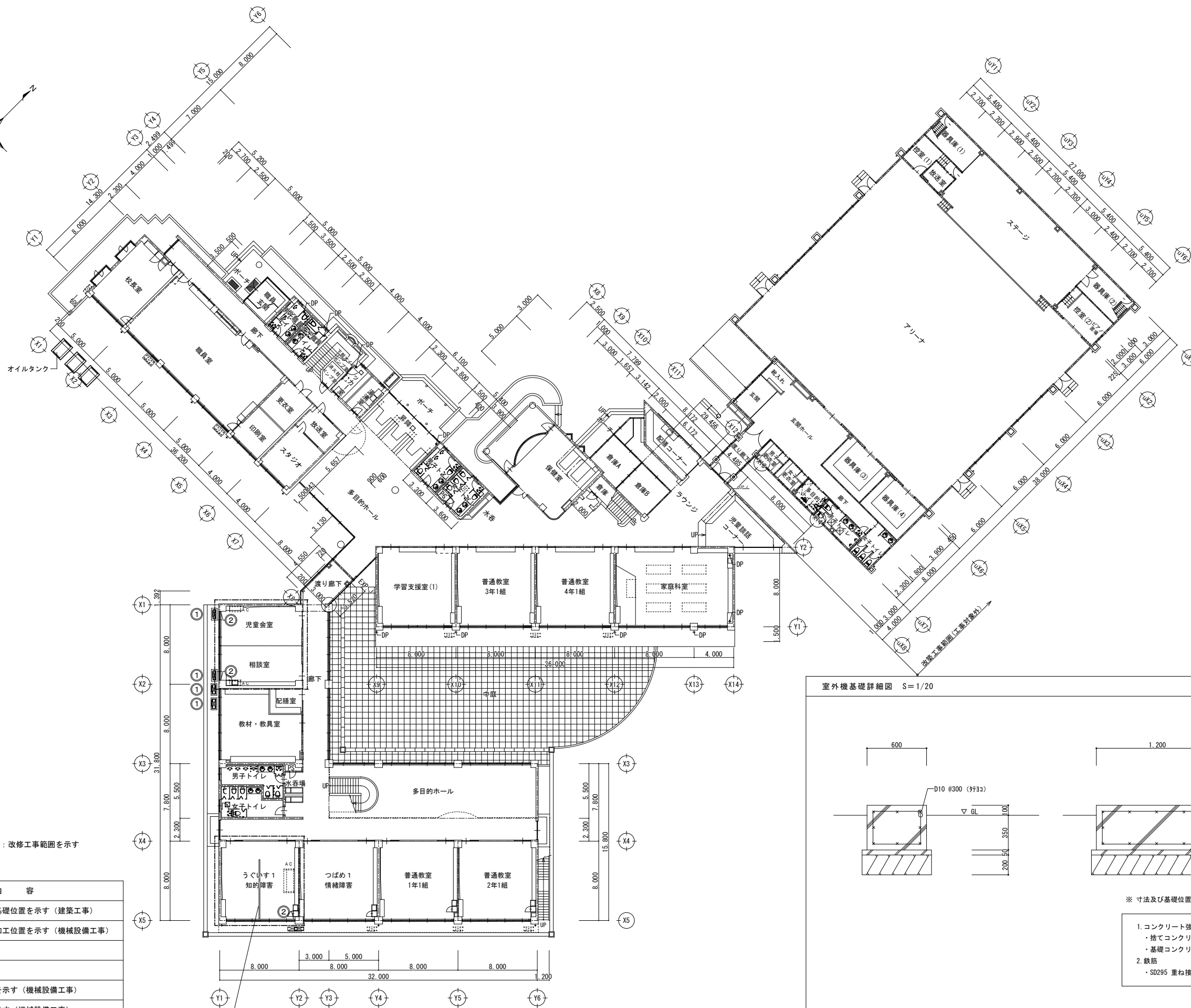
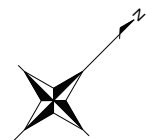
案内図 S=NON SCALE



配置図 S=1/500



: 改修工事範囲を示す



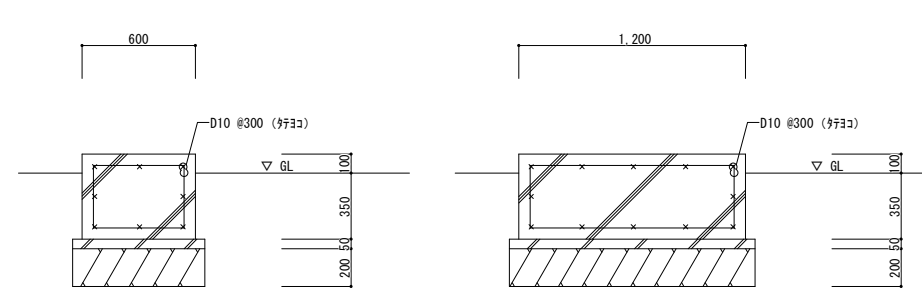
凡例

記号	内容
①	室外機用コンクリート基礎位置を示す (建築工事)
②	壁及び腰壁のスリーブ加工位置を示す (機械設備工事)
AC	天井付室内機取付位置を示す (機械設備工事)
AC	壁掛室内機取付位置を示す (機械設備工事)

仮設間仕切り新設
LGS65形下地、ラワン合板t=9 II類 (両面) SOP
W=6.0m×H=1.8m

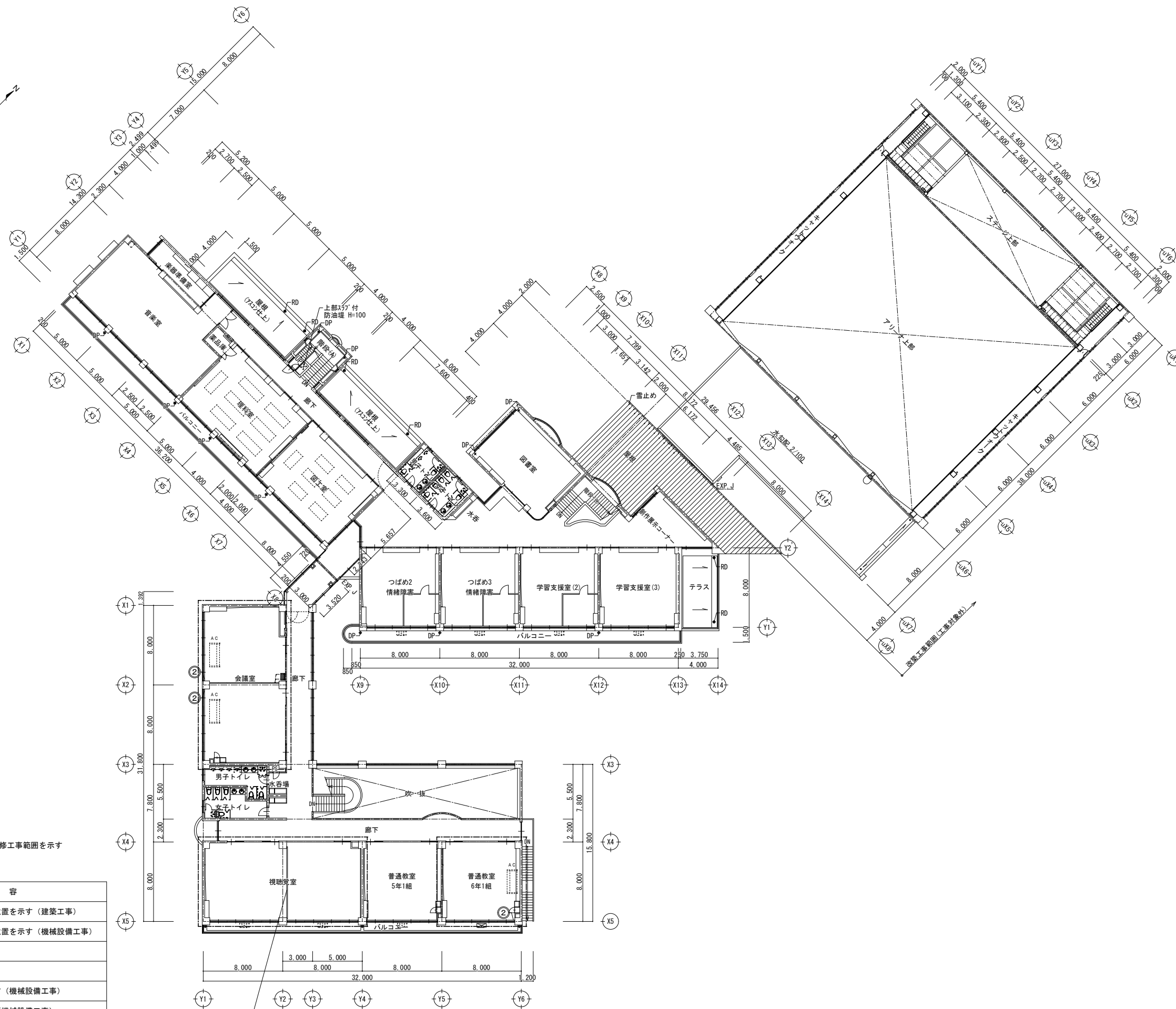
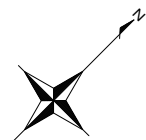
1階平面図 S=1/200

室外機基礎詳細図 S=1/20



※ 寸法及び基礎位置の詳細は、現場打合せによる。

- コンクリート強度
 - ・捨てコンクリート $F_c=18\text{N/mm}^2$ (S15)
 - ・基礎コンクリート $F_c=24+S\text{ N/mm}^2$ (S15)
- 鉄筋
 - ・SD295 重ね接手

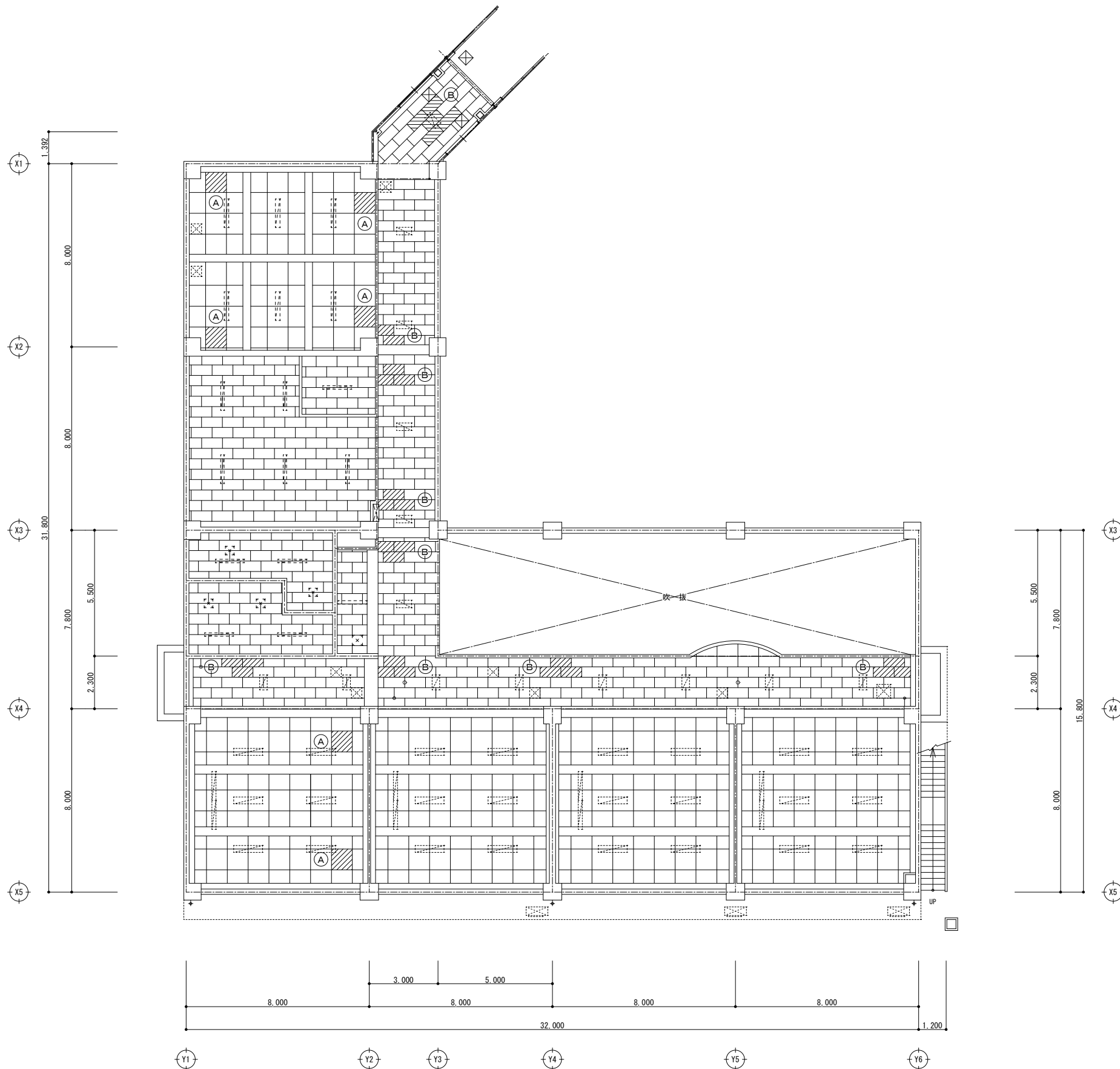


2階平面図 S=1/200

：改修工事範囲を示す

記号	内容
①	室外機用コンクリート基礎位置を示す(建築工事)
②	壁及び腰壁のスリーブ加工位置を示す(機械設備工事)
AC	天井付室内機取付位置を示す(機械設備工事)
AC	壁掛室内機取付位置を示す(機械設備工事)

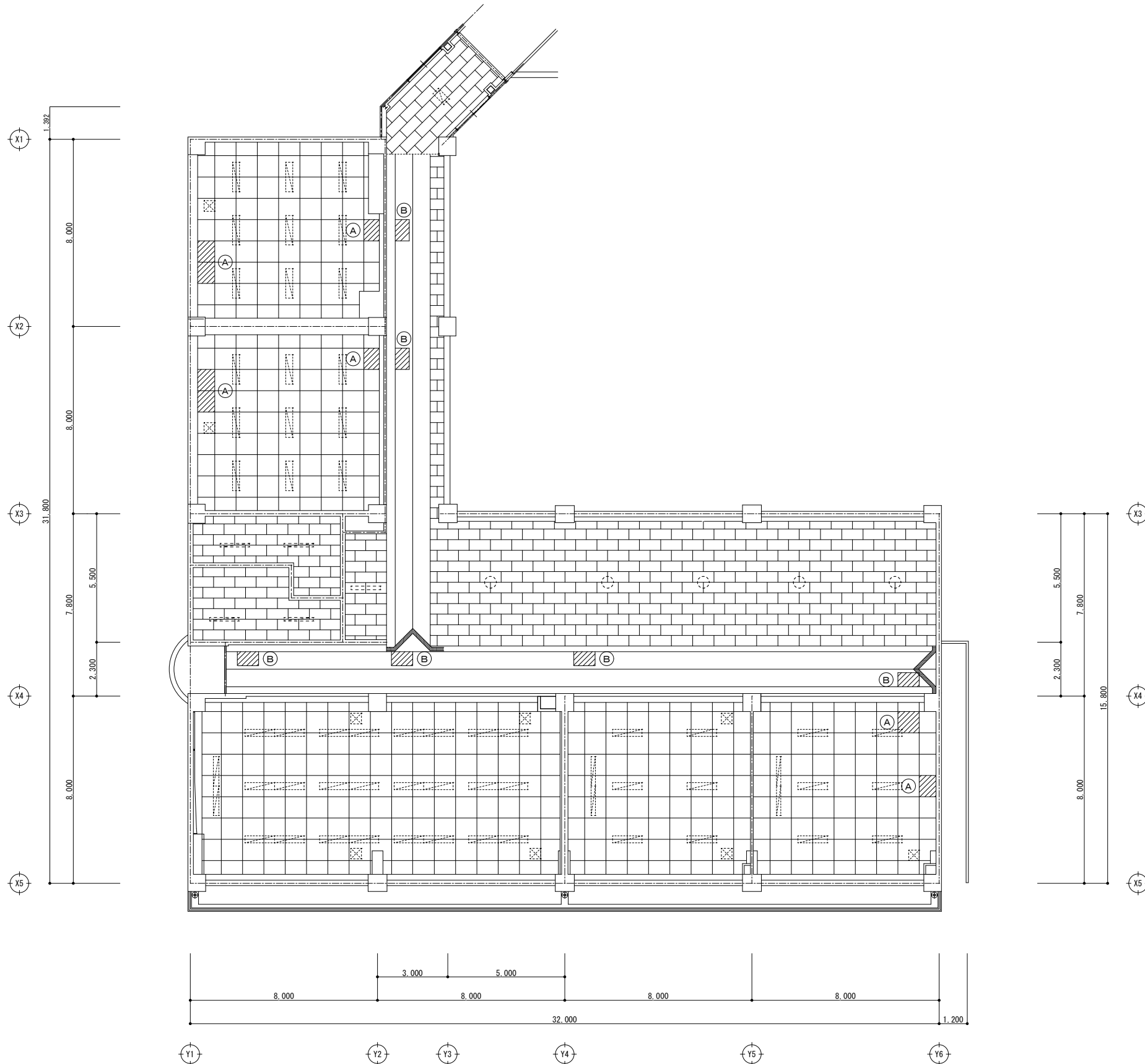
仮設間仕切り新設
LG665形下地、ラワン合板t=9 II類(両面)SOP
W=7.11m×H=3.10m



1階天井伏図 S=1/100

凡例

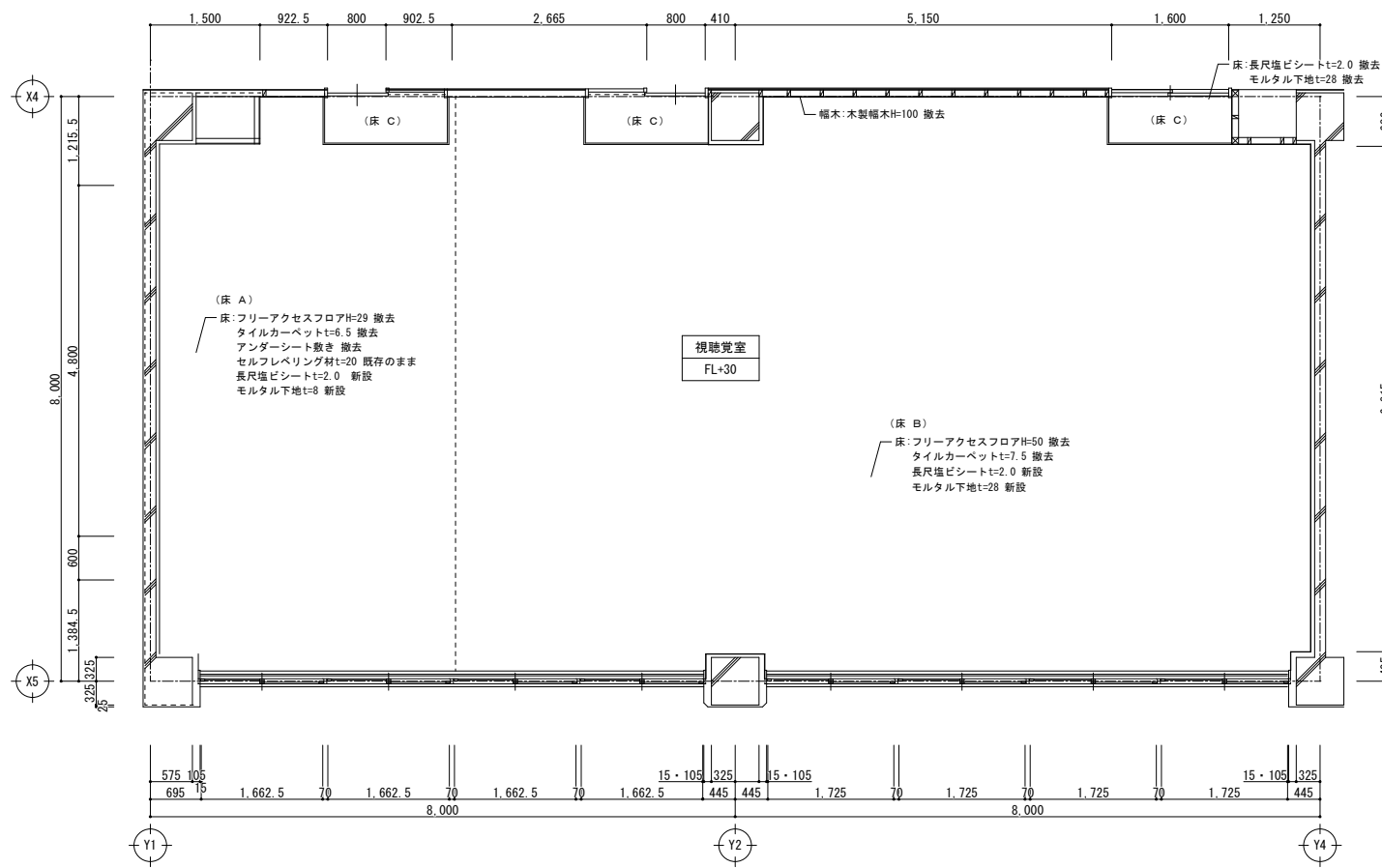
記号	内容
(A)	有孔石膏ボードt=9 目透し貼 EP 撤去、 有孔石膏ボードt=9.5 目透し貼 EP 新設
(B)	化粧石膏ボードt=9(455×910) 撤去、 化粧石膏ボードt=9.5(455×910) 新設
	既存仕上撤去、取替位置を示す
	既存天井点検口600×600の位置を示す(既存のまま)
	既存天井点検口450×450の位置を示す(既存のまま)
	既存照明器位置を示す(既存のまま)



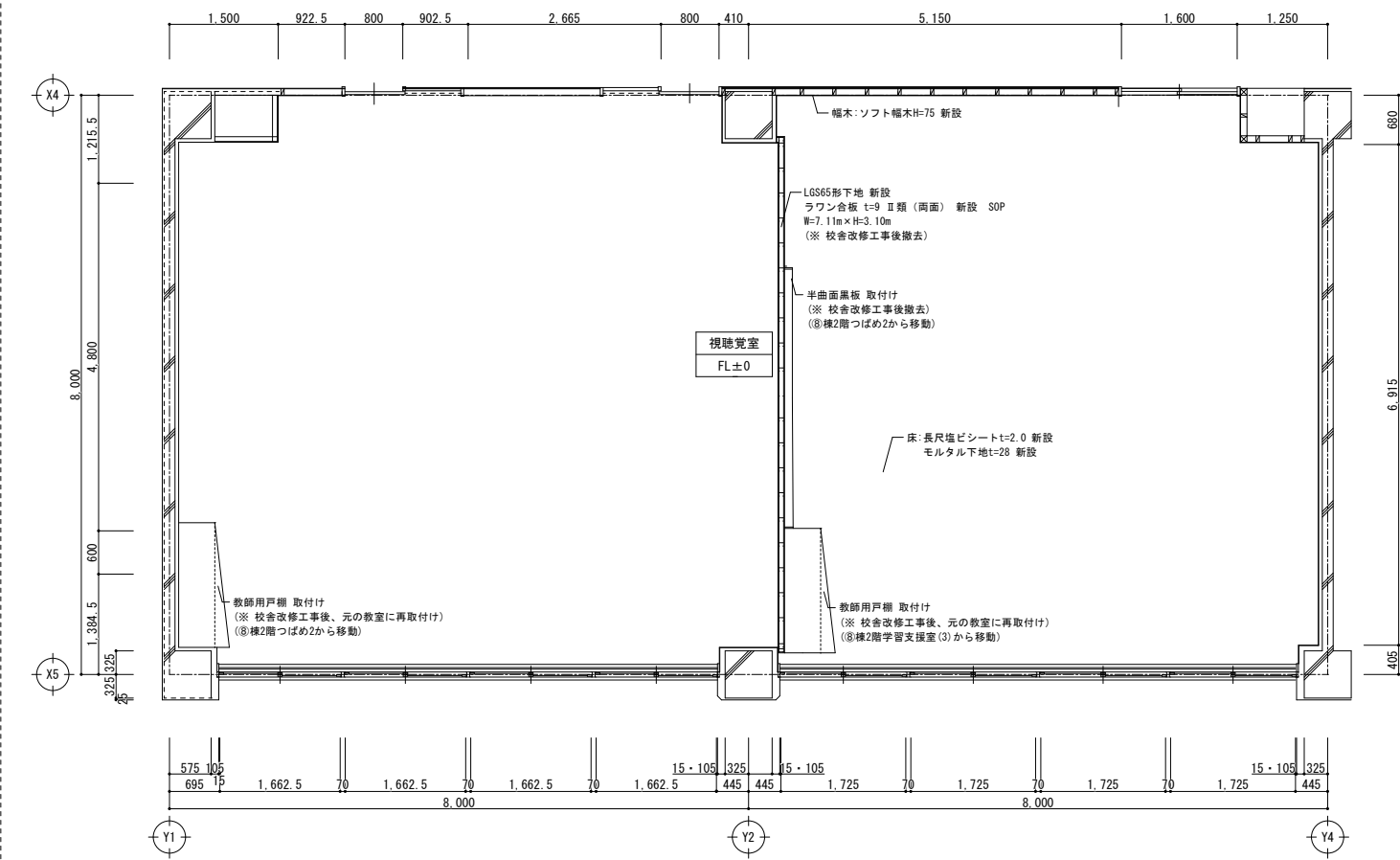
2階天井伏図 S=1/100

凡例

記号	内容
(A)	有孔石膏ボードt=9 目透し貼 EP 撤去 有孔石膏ボードt=9.5 目透し貼 EP 新設
(B)	化粧石膏ボードt=9(455×910) 撤去、 化粧石膏ボードt=9.5(455×910) 新設
	既存仕上撤去、取替位置を示す
	既存天井点検口600×600の位置を示す(既存のまま)
	既存天井点検口450×450の位置を示す(既存のまま)
	既存照明器位置を示す(既存のまま)

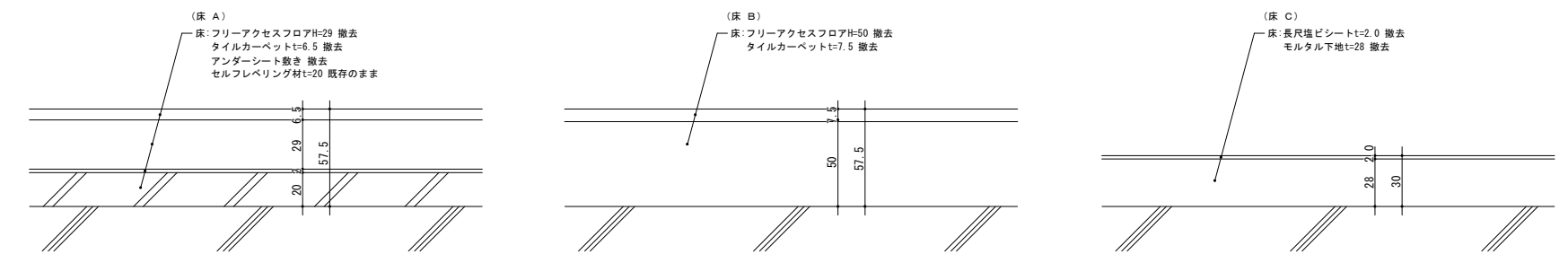


視聴覚室平面図 (改修前) S=1/50

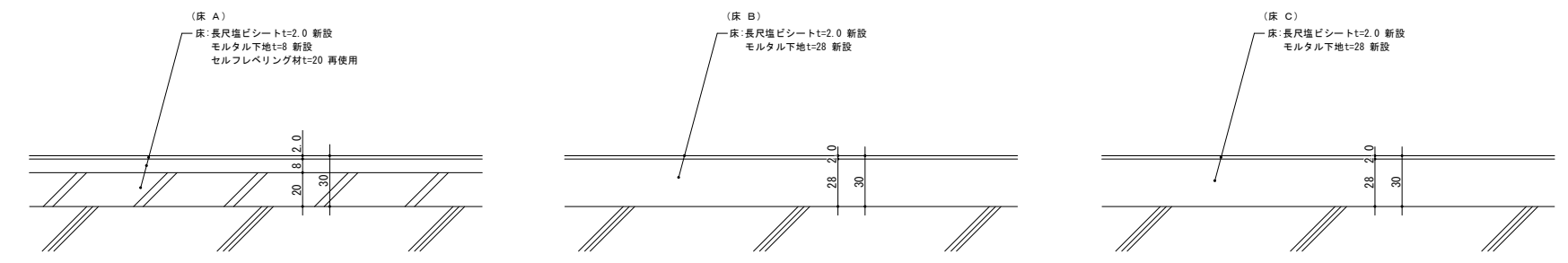


視聴覚室平面図 (改修後) S=1/50

床断面図 (改修前) S=1/2



床断面図 (改修後) S=1/2



電気設備改修工事 特記仕様書

I. 工事概要

1. 工事場所 青森県三戸郡階上町大字角柄折字石鉢14-2

2. 建物概要

Table with columns: 建物名称, 構造, 階数, 建築基準法による延べ面積, 消防法施行令別表第一の区分, 施設の種類, 備考

3. 工事種目 (●印の付いたものを適用する。)

Table with columns: 工事種目, 屋内, 屋外, 備考

4. 指定部分 〇なし 〇あり 範囲: 工期: 令和 年 月 日

II. 工事仕様

- 1. 共通仕様
図面及び本特記仕様に記載されていない事項は、国土交通大臣官房官庁管轄部制定の下記仕様書等のうち、●印が付いたものを適用する。
● 公共建築工事標準仕様書 (電気設備工事編) (令和4年版) (以下「標準仕様書」という。)
● 公共建築改修工事標準仕様書 (電気設備工事編) (令和4年版) (以下「改修標準仕様書」という。)
● 公共建築改修工事標準仕様書 (令和4年版) (以下「標準仕様書」という。)

2. 特記仕様

- 特記事項は、●印の付いたものを適用する。
●印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
●印と◎印の付いた場合は、共に適用する。

Table with columns: 項目, 特記事項

● 4. 機材の品質等

- (1) 本工事に使用する機材等は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。
(2) 下表に機材名が記載された製造業者等は、次の①から⑥すべての事項を満たす証明となる資料を提出して監督職員の承諾を受ける。
ただし、次の①から⑥すべての事項を評価された事を示す外部機関が発行する書面を提出し監督職員の承諾を受けた場合は証明となる資料等の提出を省略することができる。
① 品質及び性能に関する試験データを整備していること。
② 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。
③ 安定的な供給が可能であること。
④ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。
⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。
⑥ 販売、保守等の営業体制を整えていること。

Table with columns: 機材名, 製造業者等名

施工範囲 図面に特記なき場合は、「工事区分表」による。

- (1) 設備機器の固定は、「建築設備耐震設計・施工指針・2014年版」(独立行政法人建築研究所監修)により、次に示す設計用地震力に耐える方法とする。
ただし、重量1kN以下の一般機器について、製造者の指定する固定方法を採用する場合はこの限りではない。
① 設計用水平地震力
機器の重量 [kN] に、設計用標準水平地震度を乗じたものとする。
なお、特記なき場合は設計用標準水平地震度は次による。

Table with columns: 機器種別, 特定の施設, 一般の施設

- 配電盤 ○ 発電装置 (防災用) ○ 直流電源装置
○ 交流無停電電源装置 ○ 交換装置 ○ 自動火災報知受信機
○ 中央監視制御装置 ○
② 設計用鉛直地震力
設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。
③ 地域係数 ※1.0 ○0.9
(2) 横引き配管等の耐震支持は、施設の耐震安全性の分類に応じたものとする。
イ) 撤去機器、器具等についてアスベスト含有製品調査を行い、監督職員に報告する。
調査範囲 ()
調査方法 ()
ロ) 下記のアスベスト含有製品の定性分析調査を行うものとし、採取部位及びサンプル数は監督職員と協議する。
なお、調査にかかる費用は、 ○本工事 ○別途 とする。
※ 別契約の関係受注者が設置したものは無償で使用できる。
○ 本工事で設置する。
「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり設置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。
○ 内部足場 種別 ○ 脚立、足場板等 ○
○ 外部足場 種別 ○ A種 ○ B種 ○ C種 ○ D種 ○ E種
防護シート ○ 設置する。 ○ 設置しない。
○ 材料、撤去材等の運搬方法 (建築工事編2.2.1 表2.2.1による。)
種別 ○ A種 ○ B種 ○ C種 ○ D種 ○ E種
○ 仮設間仕切り
種別 ○ A種 ○ B種 ○ C種
○ 既設部分の養生
○ 行う (○ビニルシート等 ○)
○ 行わない

○ 7. アスベスト含有製品調査

- 8. 足場その他

一般 共通 事項 備

- 9. 電源周波数
● 10. はつり
○ 11. 非破壊検査
イ) 放射線透過検査等による埋設物の調査
ロ) 範囲は監督職員の指示によるものとし、費用は別途とする。
● 12. あと施工アンカー
イ) あと施工アンカー 接着系アンカー (接着剤(有機系))
金属拡張系アンカー (本体打込み式)
性能確認試験 ○ 行う ● 行わない
施工後確認試験 ○ 行う ● 行わない
ロ) 試験
機器撤去後の天井、壁及び床等の補修は既存仕上げと同等の補修とする。
施工に際し既存設備、施設等に損害を及ぼした場合は、原状に復旧する。
イ) 屋外機器及び屋外の配管に使用する支持金物(ボルト類)は溶融亜鉛めっき製またはステンレス製(SUS304)とし、屋外機器のアンカーボルトのナットにはナットキャップ(樹脂製)を取り付ける。
ロ) 振動を伴う機器の支持金物のナットはダブルナットとする。
○ 下記種類の改修等は、製造者等による作業とする。
○ 分電盤 ○ 制御盤 ○ 受変電盤 ○
○ 盤類の改修前と改修後に関連する器具類、回路等の動作確認試験を行い、試験成績書を監督職員に提出する。
○ 盤類の工事完了後に、単線結線図の更新を行う。
各機器の個別運転後に下記の設備について総合動作試験を行い、試験成績書を監督職員に提出する。
○ 照明制御装置 ○ 受変電設備 ○ 電力貯蔵設備
○ 発電設備 ○ 駐車場管制設備 ○ 防犯・入室管理設備
○ 中央監視制御設備 ○
● 13. 撤去跡の補修
● 14. 既存施設等の復旧
● 15. 支持金物・固定金具
○ 16. 既存盤の改修
● 17. 総合動作試験
○ 18. 電線・ケーブル
○ 19. ケーブルの種類
● 20. 厚鋼電線管
○ 21. 合成樹脂製可とう管
● 22. 電線本数、管路など
● 23. インサート
○ 24. フラッシュプレート
○ 25. フロアプレート
○ 26. 接地極の種類及び位置表示
● 27. 塗装
○ キュービクル、分電盤、制御盤等のキャビネットの仕上げ
※ 製造者の標準仕上げとする。
○ 下記部位に使用できるものは、指定色仕上げとし、それ以外は製造者の標準仕上げとする。
○ 屋外 ○ 屋内 ()
○ 下記部位に使用する、外面めっき電線管の露出配管には塗装を施す。()
○ 居室 ○ ()
● 28. 機器取付高さ
● 29. 保温、結露防止
○ 30. 呼び線
○ 31. 本受電後の基本料金
○ 1. タンブラースイッチ
○ 2. OAフロア用配線器具の差
○ 3. 無電圧検知用OAケーブル
○ 4. 人感センサー用プレート
○ 5. ターミナルユニット付リモコンリレー
○ 6. LED照明器具
○ 7. 照度測定
○ 8. 照度測定(非常用の照明装置)
○ 9. 分電盤
○ 10. 制御盤

表1「接地極一覧表」

Table with columns: 接地極の種類, 記号, 接地抵抗値, 接地極の規格、数量

表2「機器取付高さ」

Table with columns: 機器, 測点, 取付高(mm)

注) 天井高3,000mm以上の場合及び上取付取付高さにおいて機器の使用に支障が生じる場合は、監督職員と協議する。

工事区分表 (他工事との取合い等)

区分はO印を適用する。

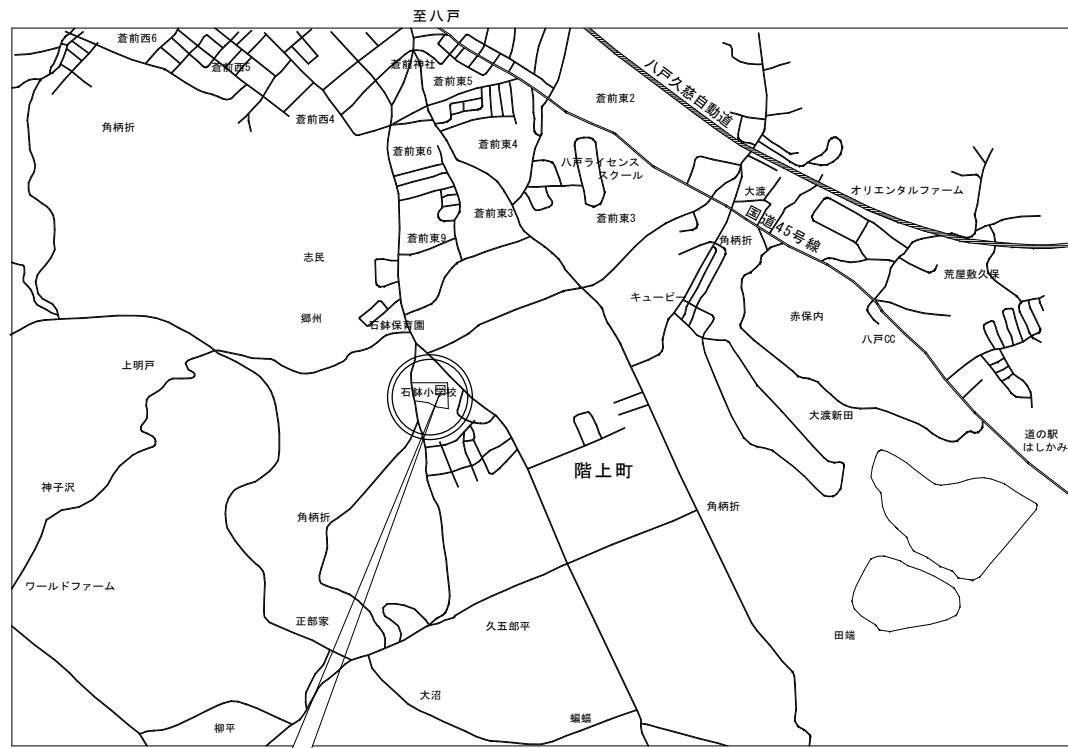
A: 建築工事 E: 電気設備工事 M: 機械設備工事 EV: エレベーター設備工事

※複数箇所にO印がある場合は、それぞれ必要とする工事を実施する。

項目	A	E	M	EV	備考	項目	A	E	M	EV	備考	項目	A	E	M	EV	備考			
躯体関係						4. 昇降機関連 (続き)						9. フリーアクセスフロア						屋外排水設備・外構		
1. RC造 (梁・壁・床) の貫通孔・開口部	貫通孔のスリーブ材及び取付け	O	O	O	O		E V警報盤又はE V監視盤までの緊急地震速報受信用の配管工事					O	コンセント					O	屋外雨水排水設備	
	補強を要する型枠材及び取付け	O					E V制御盤からE V監視盤又は警報盤までの制御及びインターホンの配管・配線工事					O	床パネルの切り込み加工					O	樹及び樹ふた	
	補強を要しない型枠材及び取付け	O	O	O	O		動力計測用電力計から自動制御盤までの配管・配線工事					O	防火戸の自動閉鎖装置					O	マンホールの化粧上ふたの表面仕上げ	
	貫通孔・開口部の墨出し	O	O	O	O							O	上部電動シャッター本体・制御盤 手動閉鎖装置・ヒューズ装置					O	雨水公設枘	
	貫通孔・開口部の補強	O										O	排煙窓本体・自動閉鎖装置							公共下水道が分流式の場合
	スリーブ・型枠の穴埋め	O	O	O	O	防火区画、防煙区画	5. その他	トラフ・ピット類 (湧水・汚水) RC造各種水槽					O	防煙たれ壁本体・駆動装置						
2. S・SRC造の梁貫通孔	S・SRC造貫通鋼管スリーブ・補強	O					同上用防水・ふた・マンホール タラップ等					O	上部電動シャッター・排煙窓及び防煙たれ壁連動制御装置の感知器							
	使用されたスリーブの穴埋め	O	O	O	O	防火区画、防煙区画	雷保護設備・同接地工事					O	自動扉の本体・駆動装置・検出装置 (センサー)							
	予備スリーブの穴埋め	O	O	O	O	防火区画、防煙区画	A L C板の壁開口・補強					O	自動扉の手元電源スイッチ							
3. 設備機器の基礎	屋内の基礎 (建築設計図に記入のあるもの)	O					厨房排水溝					O	電気錠の本体、扉内配線							
	屋内の基礎 (設備設計図に記入のあるもの)		O	O			厨房グリース阻集器					O	電気錠の扉までの配管及び配線							
	屋外・屋上の基礎	O					オイルサービスタンクの防油堤					O	自動閉鎖装置を取りつける防火戸の切り込み補強及びドアクローザー、フロアヒンジ							
	屋上基礎で押さえコンにアンカーしない軽微なもの		O	O			フリーアクセスフロア内の防水堤					O	自動扉・電動シャッターからセンサー (附属スイッチ) への配管・配線工事							
	機器取付け用アンカー・架台		O	O			既設埋設配管配線調査 (X線探査含む)					O	自動扉・電動シャッター本体までの配管・配線							
	屋内受水タンク用の基礎	O					仕上げ関係													
	太陽電池アレイ用架台 (支持金物)	O	O			AとEの区分は図示	1. 計量鉄骨 天井下地・壁下地													
							補強を要するボードの切り込み及び下地の補強													
4. 昇降機関連	機械室・昇降路の躯体	O					補強を要しないボードの切り込み													
	機械室の床開口	O					開口部の墨出し													
	機器室の床配管ピット・ふた	O																		
	機械室の上げ床コンクリート打設・仕上	O																		
	機械室・昇降路内換気設備			O			2. 可動間仕切り	切込み及び補強												
	巻上機周囲のチェッカープレート敷				O		位置ボックス													
	昇降路内ピット防水・集水枘	O					3. つりボルト及びインサート	設備機器・器具・配管・配線・ダクト用												
	点検用タラップ				O		4. 外壁まわり	外壁ガラリ及びダクト接続用フランジ												
	各階出入口穴あけ・同補強	O					ウエザーカバー、ベントキャップ (シール共)													
	三方枠取付・枠廻り埋戻し・同補修	O					換気扇 (取付枠共)													
	昇降路がS造の時の出入口扉・三方枠及び幕板の固定用鋼材	O					サッシパネル開口													
	出入口扉・三方枠及び幕板				O		5. 湯沸室まわり	流し台・つり戸棚・水切り棚・コンロ台												
	出入口扉・三方枠及び幕板の各補強鉄骨	O					フード (標準詳細図のもの、シール共)													
	昇降路の中間ビーム、ブラケット、レールブラケット支持柱、他昇降路内の鋼製部材一式				O		ミニキッチン (照明、水栓含む)													
	昇降路がS造の時の中間ビーム及びブラケットの受けピース	O					6. 浴室まわり	浴室ユニット、複合浴室ユニット、シャワーユニット												
	機械室大梁又は昇降路内にフックの取付 (フックを含む)	O					既製浴槽 (ふたを含む)													
ホール押釦・インジケータ・鋼索などの差開口	O					浴室及び便所の床排水金物														
点検用コンセント・煙感知器		O				7. 便所まわり	洗面カウンター													
E V制御盤までの動力・照明用電源、アース、火災時管制運転用信号、非常用発電時管制運転用信号、拡声設備 (館内放送用) 配管・配線工事			O			鏡 (規格寸法のみ)														
E V警報盤又はE V監視盤からエレベーター内監視カメラまでの配管・配線工事				O	監視カメラ含む	衛生器具ユニット														
監視カメラ用の監視装置からE V警報盤又はE V監視装置までの配管・配線工事		O			電気設備のモニター装置に映像を表示する場合	手すり、背もたれ														
E V警報盤又はE V監視盤までの保守遠隔監視用 (電話回線) の配管工事		O				8. 事務室まわり	ファンコイルカバー													
							家具組み込みの洗面器													

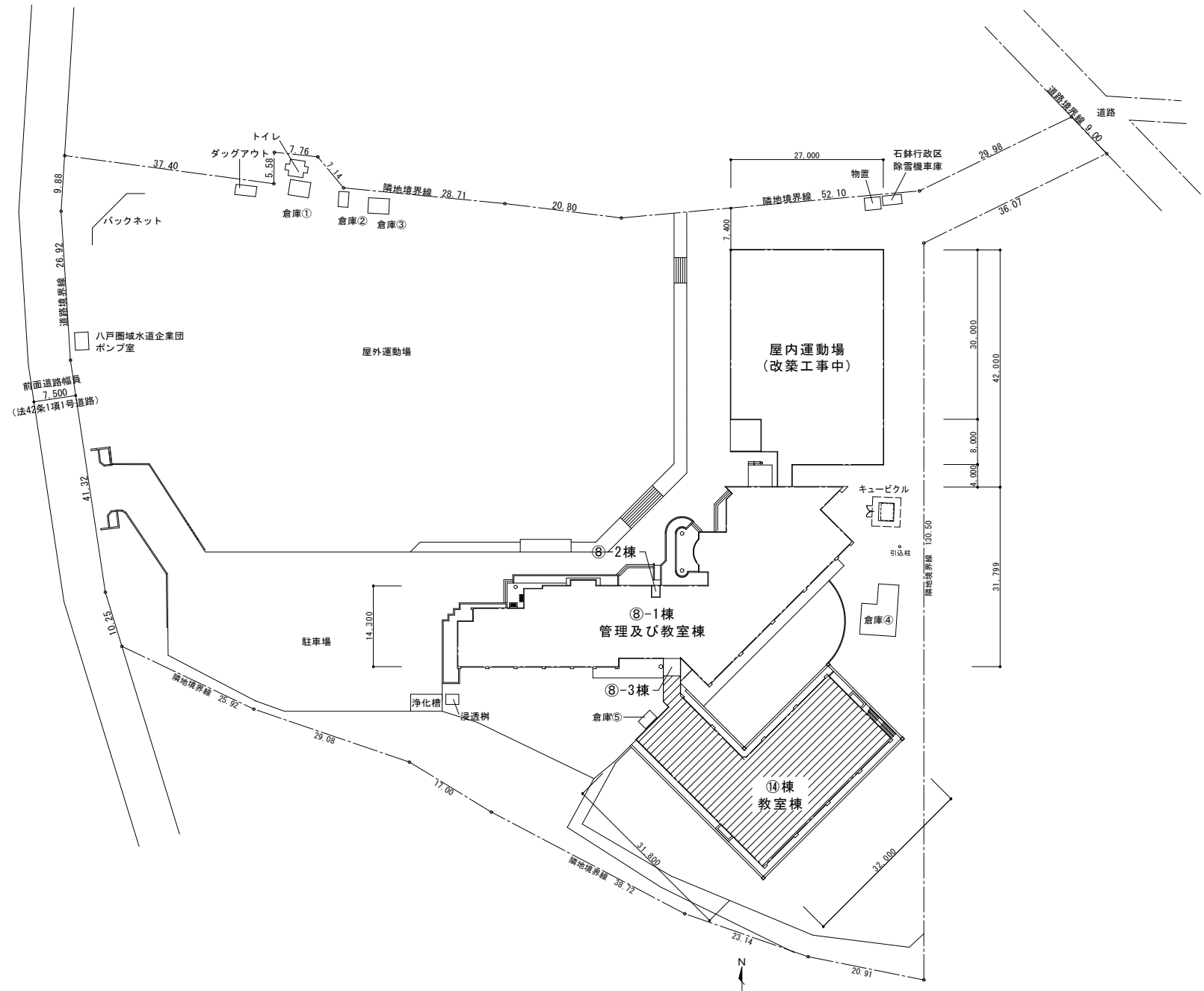
この工事区分表は、建築工事 (A)、電気設備工事 (E)、機械設備工事 (M)、エレベーター設備工事 (EV) といった施工上密接に関連する各工事において、材料や作業がどの工事に含まれているかを明確にするために共通事項として添付しているものである。よって、本工事の設計図書に記載されていない、工事範囲外の項目も含んでおり、本工事の具体的な工事内容を示すものではないことに留意すること。





工事場所：青森県三戸郡階上町大字角柄折字石鉢14-2

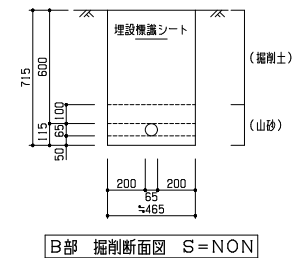
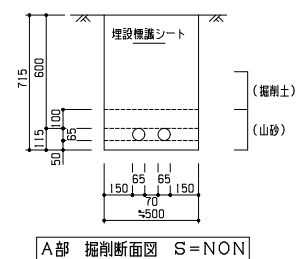
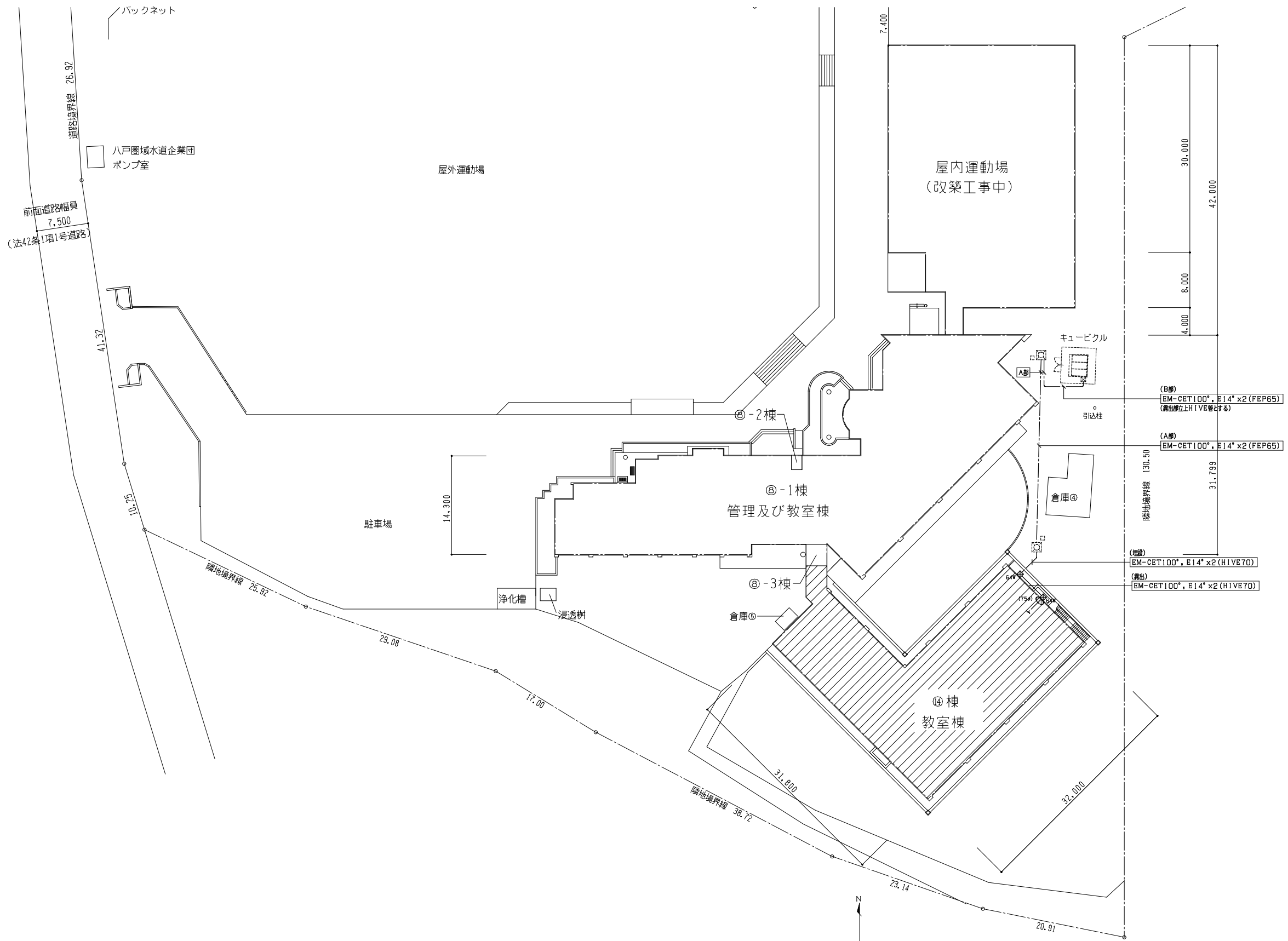
案内図 S=NON SCALE



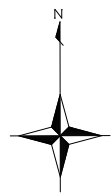
配置図 S=1/500



改修工事範囲を示す

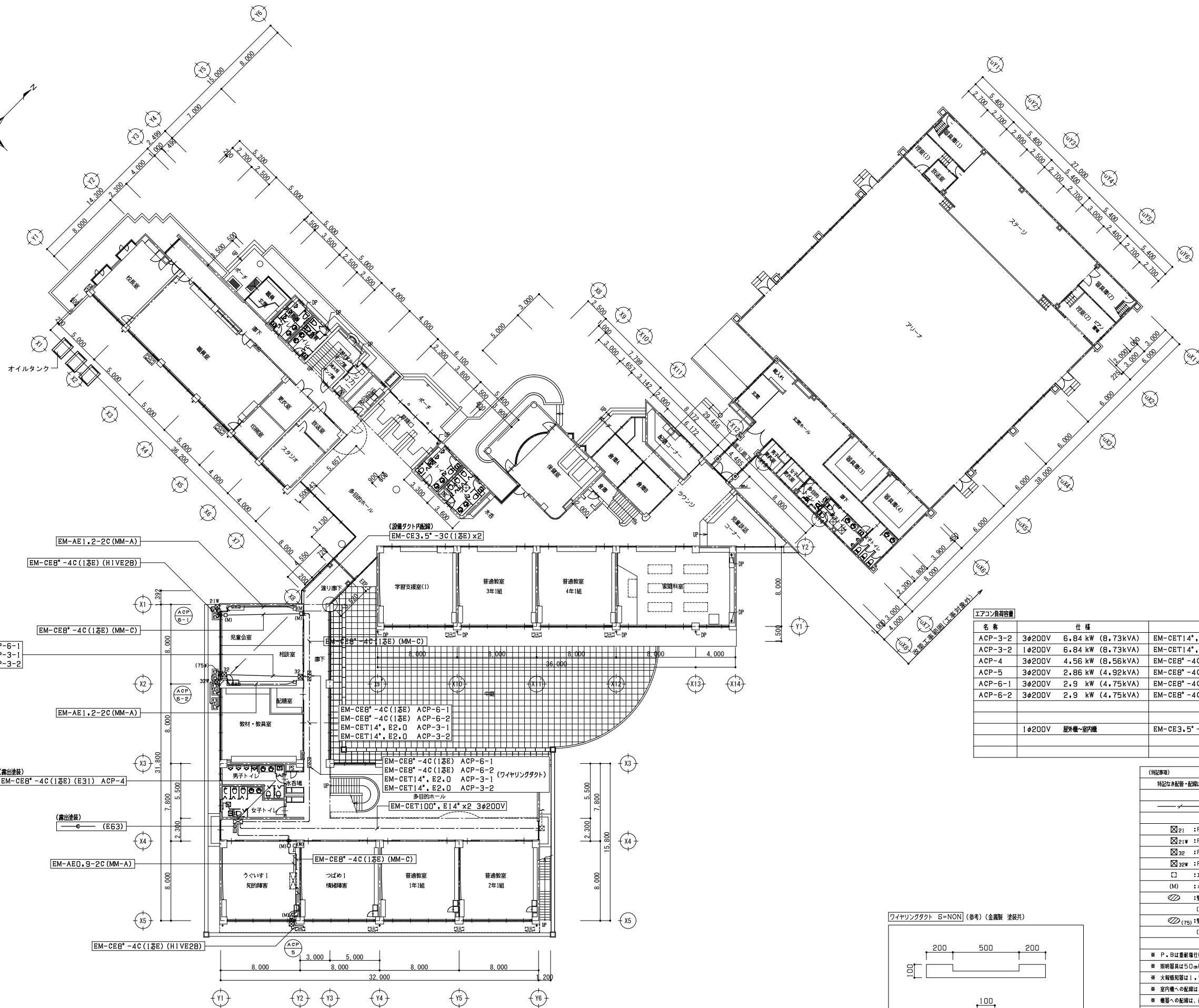
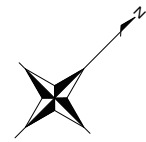


配置図 S=1/300



: 改修工事範囲を示す

〔特記事項〕	
特記なき配管・配種は、下記による。	
	: 雙研り貫通補強 75φ



EM-CEB* -4C (1添E) ACP-6-1
EM-CET14*, E2.0 (MM-C) ACP-3-1
EM-CET14*, E2.0 ACP-3-2

EM-AE1.2-2C (MM-A)

EM-CEB* -4C (1添E) (HIVE2B)

EM-CEB* -4C (1添E) (MM-C)

EM-AE1.2-2C (MM-A)

(露出接続)
EM-CEB* -4C (1添E) (E31) ACP-4

(露出接続)
(E63)

EM-AEQ.9-2C (MM-A)

EM-CEB* -4C (1添E) (HIVE2B)

(設備ダクト内接続)
EM-CE3.5* -3C (1添E) x2

EM-CEB* -4C (1添E) ACP-6-1
EM-CEB* -4C (1添E) ACP-6-2
EM-CET14*, E2.0 ACP-3-1 (ワイリングダクト)
EM-CET14*, E2.0 ACP-3-2

EM-CET100*, E14* x2 3φ200V

EM-CEB* -4C (1添E) (MM-C)

1階平面図 S=1/200

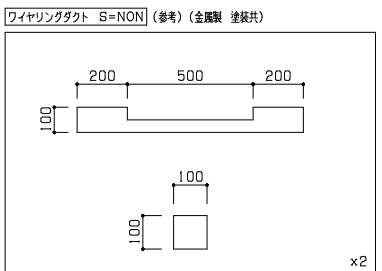
名称	仕様	配線	備考
ACP-3-2	3φ200V 6.84 kW (8.73kVA)	EM-CET14*, E2.0 (HIVE36)	2F 会議室
ACP-3-2	1φ200V 6.84 kW (8.73kVA)	EM-CET14*, E2.0 (HIVE36)	2F 会議室
ACP-4	3φ200V 4.56 kW (8.56kVA)	EM-CEB* -4C (1添E) (HIVE36)	1F 会議室
ACP-5	3φ200V 2.86 kW (4.92kVA)	EM-CEB* -4C (1添E) (HIVE36)	2F 学習支援室2
ACP-6-1	3φ200V 2.9 kW (4.75kVA)	EM-CEB* -4C (1添E) (HIVE36)	1F 児童会室
ACP-6-2	3φ200V 2.9 kW (4.75kVA)	EM-CEB* -4C (1添E) (HIVE36)	1F 相談室
	1φ200V 屋外機~室内機	EM-CE3.5* -3C (1添E) x6 (設備ダクト内接続)	室内機電源

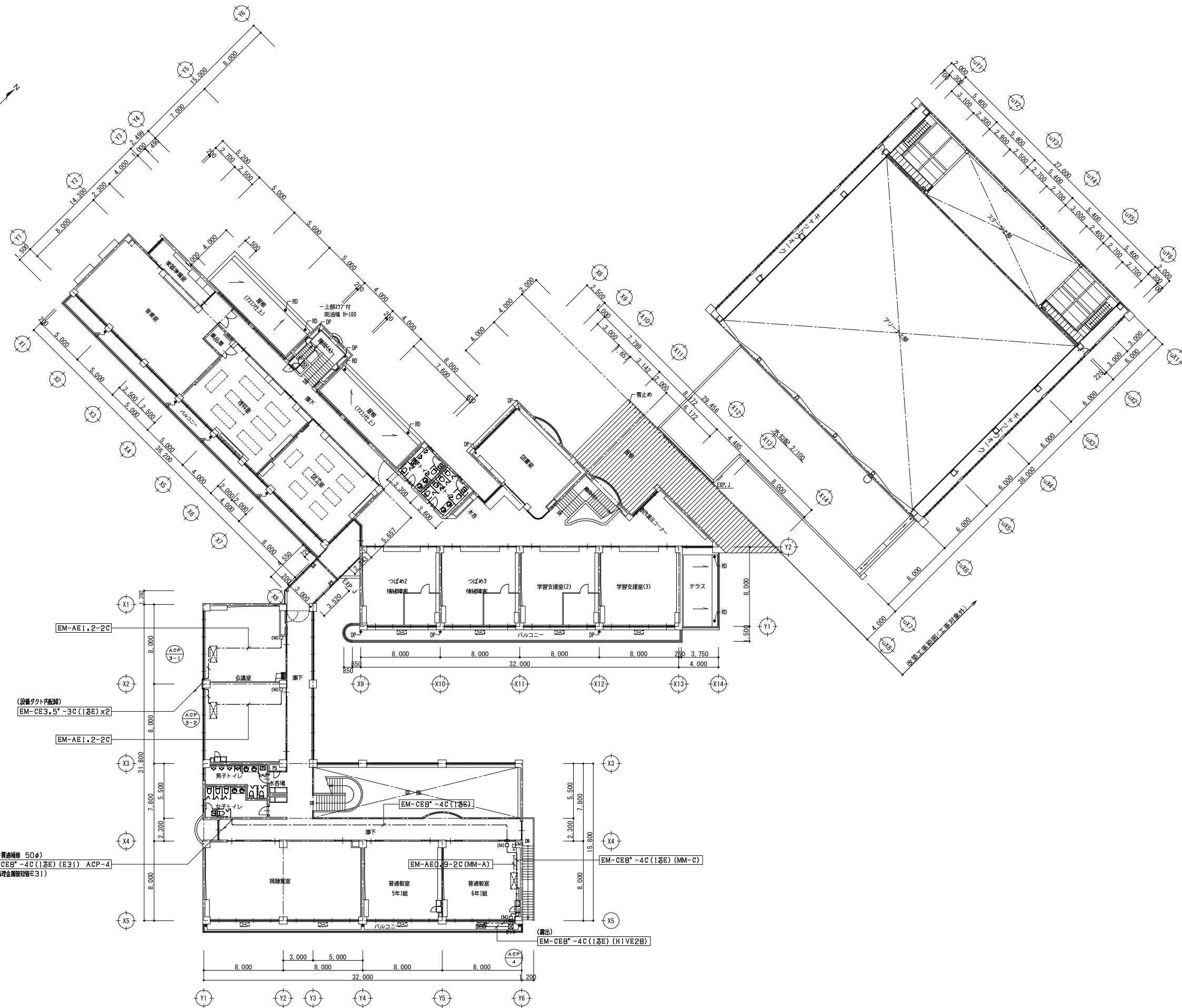
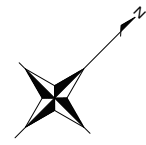
(特記事項)

特記な配管・配線は、下記による。

- EM-CE3.5* -3C (1添E) 設備ダクト内接続
- 21 : P. B200x200x100 建築
- 21W : P. B200x200x100 SUS WP
- 32 : P. B300x300x200 建築
- 32W : P. B300x300x200 SUS WP
- : エアコンコントロールスイッチ (別途配線)
- (M) : メタパネル施工とする
- 50φ : 壁掛け用配線 50φ (耐火処理金属管「規格」31)
- 75φ : 壁掛け用配線 75φ (耐火処理金属管「規格」63)

※ P. Bは最新仕様とする。
 ※ 照明器具は50φ程度設置。
 ※ 火報感知器は1.5m以上設置。
 ※ 室内機への配線は、設備ダクト内配線 (冷媒管共巻) とする。
 ※ 機器への配線は、耐火性可とう電線管にて保護の事。
 ※ 音響容量、プレーカー、ケーブルサイズ等は、仕様と打合せの事。
 ※ 室内機、屋外機の制御用配線 (EM-CEE51.25* -2C) は、機械設置工事とする。
 ※ 防火区画貫通部は耐火処理の事。





2階平面図 S=1/200



機械設備工事 改修工事 特記仕様書

I 工事概要

1. 工事場所 青森県三戸郡階上町大字角柄折字石鉢14-2

Table with 8 columns: 建物名称, 構造, 階数 (地上/地下/塔屋), 建築基準法による延べ面積(m²), 消防法施行令別表第1の区分, 施設の種類, 備考

3. 工事種目 (●印のついたものが対象工事)

Table with 3 columns: 工事種目, 建物別及び屋外, 工 事 種 別

4. 指定部分 ○無し ○有り 指定部分工期: 令和 年 月 日 対象部分 ()

5. 設備概要 (●印の付いたものを適用する。)

Table with 2 columns: 方式及び種別, 設 備 概 要

II 工事仕様

1. 共通仕様 (1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編)(令和4年版)」(以下、「改修標準仕様書」という。)

2. 特記仕様 ●印の付いたものを適用する。●印の付かない場合は※印の付いたものを適用する。●印と※印の付いた場合は、共に適用する。

Table with 3 columns: 章 項 目, 特 記 事 項

一般 共通 事項

●6. 機材の承諾図 ●7. 環境への配慮

●8. 足場その他

●9. 火気の使用 ●10. 施工調査

○11. アスベスト含有製品及び調査

○12. 埋戻し土及び盛土

●13. 容量等の表示

●14. 電源周波数 ●15. 電動機 ●16. 耐震施工

満たす証明となる資料を提出し監督職員の承諾を受ける。ただし、次の①から⑥すべての事項を評価された事を示す外部機関が発行する書面を提出し監督職員の承諾を受けた場合は、証明となる資料の提出を省略することができる。

別表(品質及び性能に該当する材料・機材等)

機械設備工事機材承諾図様式集(令和4年版)によるほか、監督職員の指示による。

(1) 本工事において、国等による環境物品等の調達に関する法律(平成12年法律第100号)に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針(令和5年2月閣議決定)」による特定調達品目の判断の基準を満たす環境物品等を選択するよう努める。

※別契約の関係受注者が指定したものは無償で使用できる。○本工事で設置する。○型番確認の上製造者ヒアリング ○調査方法 ○型番確認 ○型番確認の上製造者ヒアリング ○調査範囲 ○熱源機器 ○熱源機器 ○型番確認の上製造者ヒアリング ○調査方法 ○型番確認 ○型番確認の上製造者ヒアリング

建築物内での火気の使用は原則として行わない。事前調査 ●本工事 ○別途 調査項目 ○既存資料調査 調査範囲 ○図示 ○調査方法 ○図示 ○

イ) 次の撤去部位は石綿含有製品が使用されており、原則調査不要とする。○保温材(石綿入りけいそう保温材1号) ○たわみ継手 ○保温外装材(アスベストセメント) ○保温外装材(特殊石綿板) ○標準用パッキン(煙道伸縮部:石綿ロープ) ○標準用パッキン(壁貫通部:アスベスト) ○ダクトパッキン(石綿ロープ) ○配管接合材(石綿ジョイントシート)

イ) 管周囲の保護 ※山砂の類 (ただしコンクリート管の周囲は根切り土の良質土) ロ) 埋戻し土及び盛土 ※根切り土の中の良質土 ○山砂の類

50Hzとする。換気扇、圧力扇及び標準仕様書に記載なく特記のないものの電動機の保護規格は製造者規格による標準品としてもよい。設備機器の固定は、「建築設備耐震設計・施工指針・2014年版」(独立行政法人建築研究所監修)により、次に示す設計用地震力に耐える方法とする。

一般 共通 事項

●17. 総合運転調整 ○18. 弁等のサイズ ○19. 建物導入部配管の変異吸収 ○20. 絶縁継手取付箇所 ●21. 支持及び固定 ●22. 支持金物・固定金具 ○23. 地中埋設標等 ●24. 技能士の適用 ●25. 配 管 ●26. あと施工アンカー ○27. 既設インサート他 ○28. 既設配管の試験 ●29. 他工事との工事区分 ●30. 保温外装 ●31. 塗 装 ●32. 電線類 ○33. 案内板等 ○34. 冷媒(フロン系)回収

設計用標準水平震度 表

・上層階とは地階を除く2~6階建の場合は最上層、7~9階建の場合は上層2階、10~12階建の場合は上層3階、13階以上の場合は上層4階とする。・中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの。・水槽類にはオイルタンクを含む。・重要機器は次による。

(1) 地域係数 ※1.0 ○0.9 (2) 設計用鉛直地震力 設計用水平地震力の1/2とする。 (3) 機器類および支持架台類固定用のワッシャーの選定は座屈防止を十分検討する。

特記されていない弁等のサイズは機器付属品を除き接続配管のサイズと同じとする。図示の箇所に施工する。施工方法は「標準図」建築物導入部の変位吸収配管要領(一)、(二)による。(○(a) ○(b) ○(c))

標準仕様書記載以外の天井吊形、カセット形、天井隠ぺい形の機器の支持は吊り用ボルトで行い、振れ止めを施したものである。イ) ポンプ、屋外機器及び屋外の配管・ダクトに使用する支持金物はステンレス製(SUS304)とする。ロ) 振動を伴う機器の支持金物のナットはダブルナットとする。ハ) 冷水及び冷温水管の吊バンド等の支持部は、合成樹脂製の支持受けを使用する。ニ) 冷媒管の吊り用支持受け材として保護プレートを、断熱材被覆配管と吊り金物との間に掛け、自重による断熱材の食込みを防止する。

(1) 地中埋設標(図示の位置) ※要 ○不要 (2) 埋設表示テープ(排水管を除く) ※要 ○不要 ●配管施工(配管工事) ○建築板金施工(ダクト製作及び取付け) ○冷凍空調和機器施工(チリングユニット、パッケージ形空調和機の据付け及び整備) ●熱絶縁施工(保温工事)

(1) ステンレス鋼管の接合は下記による。 ※呼び径60Su以下(※プレス式 ※拡管式) (2) 溶接部の非破壊検査 ※不要 ○要 (3) 呼び径50以下の鋼管のねじ加工は原則として転造ねじ加工とする。ただし、樹脂ライニング鋼管(ポリ樹脂配管を除く)のねじ加工は切削ねじ加工とする。 (4) 排水管の90°曲管は原則として大曲管とする。

●金属拡張系アンカー(※本体打込式) ○接着系アンカー(接着剤は有機系とする) ただし、配管・ダクト・機器等の天井つり下げ用アンカーには、接着系アンカーを使用しない。イ) 性能確認試験 ※行わない ○行う ロ) 施工後確認試験 ※行わない ○行う

既設インサート及びアンカーボルト ※使用しない ○使用する 給水 ※行わない ○行う 排水 ※行わない ○行う 冷水 ※行わない ○行う 冷却水 ※行わない ○行う 給湯方法 給湯水 ○ ○ 排水 ○ ○ 冷水 ○ ○ 冷却水 ○ ○

(1) 屋内露出の保温外装は、合成樹脂カバー2とする。 (2) 床下暗室内(ベットの内を含む)の保温に使用する着色アルミガラスクロスの外装色の分類は、以下を標準とする。

外装色 表

(1) ○保温を行わない居室、便所・湯沸室及び屋外の露出配管(銅管)、ダクトには塗装を行う。 ○図示による。 (2) ○露出金属電線管は次の部分の塗装を行う。 ○屋外架空部 ○機械室 ○屋内一般

冷媒機等の撤去に伴う冷媒回収方法は、改修標準仕様書第3編2.4.3により適切に行うこと。ただし、家電リサイクル対象機器は除く。冷媒回収の費用は(○本工事 ○別途)とする。家電リサイクル対象機器の冷媒回収方法はポンプダウン方式とする。リサイクル料金は(○本工事 ○別途)とする。

○35. 計器類 ○36. 土工事 ●37. 貫通部の処理 ●38. はつり ○39. 危険物設置時の屋外表示板

一般 共通 事項

●37. 貫通部の処理 ●38. はつり ○39. 危険物設置時の屋外表示板

●1. 設計温度

設計温度表

熱源機器の水温条件 表

取付箇所は図示による。板厚は煙道径300mm以下は3.2mm、300mmを超えるものは4.5mmとする。煙道を設置する場合、ばいじん測定口(口径100φ、タッピング)を設ける。(煙道径400mmを超えるものは、掃除口に蝶番を取り付ける。)

既設 ※低圧ダクト ○高圧ダクト1 改設 ※低圧ダクト (長方形ダクトは ※コーナーボルト工法(長辺の長さが1,500mm以下の部分) ○アングルフランジ工法) ○高圧1ダクト(適用範囲は図面による)

取付箇所は図示による。取付面は監督職員の指示による。 (1) 防煙ダンパー 復帰方式 遠隔式(定格入力はDC24V、0.7A以下とする。) (2) ヒストンダンパー 復帰方式 遠隔式

○5K 呼び径65A以上の弁はバタフライ弁とする。 ステンレス鋼管に取り付ける弁類はステンレス製とする。 冷温水コイル及び蒸気加熱コイル廻り(標準図施工37-41)の弁は仕切弁とする。

○ペローズ形 ○スリーブ形 円形指示計とする。

止水コック付とする。(※ 固定形 ○着脱形) 着脱形の流量指示部(○O4A用 個、○O100A用 個、○O250A 個)を付属する。

イ) 内貼チャンパー類の寸法表示は、外形寸法とする。 ロ) 空調和機に取り付けるサブライチャンパー、レタンチャンパー及びダクト系統で消音内貼りしたチャンパーには点検口を設ける。 なお大きさは図示による。

イ) 蒸気配管の保温は不要(屋内露出は除く) ロ) 屋外露出管(弁、フランジを含む)の保温は、標準仕様書第2編 3.1.4表2.3.3 E2・(ハ)とし厚さは呼び径25mm以下は50mm、呼び径32mm以上は40mmとする。 ハ) 遠気ダクトの保温 ※不要 ○要(保温の厚さ25mm、範囲は図示による) ニ) 外気取入れダクト及びチャンパーボックスの保温 ※要 ○不要 ホ) 排気ダクトは外壁開放部より1m程度を保温する。(チャンパーボックス含む)

イ) 機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。 ロ) 電動機出力、燃料消費量、圧力損失は原則として表示された数値以下とする。 50Hzとする。 換気扇、圧力扇及び標準仕様書に記載なく特記のないものの電動機の保護規格は製造者規格による標準品としてもよい。 設備機器の固定は、「建築設備耐震設計・施工指針・2014年版」(独立行政法人建築研究所監修)により、次に示す設計用地震力に耐える方法とする。 ただし、重量1kN以下の一般機器について、製造者の指定する固定方法を採用する場合はこの限りではない。 (1) 設計用水平地震力 機器の重量[kN](水槽類は満水時の液体重量を含む設備機器総重量)に、地域係数1.0及び次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。

次の部位に使用するダクトには塗装を行う。 ○制気口ボックス内面(居室・便所の見えかかり部) ○図示による

○13. 塗 装

章 項 目	特 記 事 項
空気調和設備 ○14. 消音内貼り ○15. 緊急遮断弁 ○16. 注油口及び指示ボックス ○17. カセットファンコイルユニット(風量分配ダクト) ○18. 温水パネルヒーター ●19. 電気パネルヒーター	吹出口に接続するチャンパーの消音内貼りは図示による。 オイルサービスタンクに設置する緊急遮断弁は、停電時に閉じるものとする。 ○ 単独形 ○ 共用形(○ 油量指示計 ○ ローリーアース) ※ 垂鉛鉄板 ○ 自己消火性のポリスチレンフォーム製 ※ 鋼板製 ○ アルミ製 ○ (1) ケーシングはステンレス製とする。 (2) 便所に設置する場合は、いたずら防止カバー付とする。
換気設備 ○1. 準拠事項 ○2. 開放形汚濁用排気フード ○3. 厨房用排気ダクト ○4. 厨房用排気フード ○5. 多湿箇所の排気ダクト ○6. 保温 ●7. 換気扇類 ○8. 給排気口	[空気調和設備の当該事項に準ずる。] ○ダクト ○風量測定口 ○ダンパー ○チャンパー ○塗装 ○既設 ○改設(○別途 ○本工事) アンクルフランジ工法とする。 既設 ○垂鉛鉄板 ○亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板(SUS304) (板厚は衛生器具表空調1の厨房排気ダクトの板厚表による) 既設 材質(天幕とも) ○ステンレス鋼板(SUS304) ○ フード周囲の天幕(フード面から天井面まで) ○有 ○無 改設 材質(天幕とも) ○ステンレス鋼板(SUS304) ○ フード周囲の天幕(フード面から天井面まで) ○取り付ける ○取り付けない フードゴック ○取り付ける ○取り付けない イ) 厨房系統、浴室(シャワー室、脱衣室を含む)系統のダクトのシールは「標準図」シールの施工例(一)、(二)のNシール+Aシール+Bシールとする。 ロ) 水抜き管 ○要 ○不要 全熱交換器(空調換気扇)の外気取入れダクト(OA)、給気ダクト(SA)及び排気ダクト(EA)は全て保温する。 換気扇類は低騒音形以上とし、有圧換気扇は保護ガード付とする。 外壁に設置するベントキャップ、ウェザーカバー等には、給気用に防虫網、排気用に防鳥網を取り付ける。
排煙設備 ○1. ダクト ○2. 排煙口の形式 ○3. 排煙口の形式 ○4. 排煙風量測定方法	既設 ○亜鉛鉄板 ○普通鋼板(厚1.6mm) 改設 ○亜鉛鉄板 ○普通鋼板(厚1.6mm) 既設 ○パネル形(○天井取付 ○壁取付) ○スリット形(○天井取付 ○壁取付) ○ダンパー形(○天井内取付 ○壁内取付) 改設 ○パネル形(○天井取付 ○壁取付) ○スリット形(○天井取付 ○壁取付) ○ダンパー形(○天井内取付 ○壁内取付) 既設 ○電気式(遠隔操作 ○有 ○無) 改設 ○電気式(遠隔操作 ○要 ○不要) 排煙口から手動開放装置への配線は、標準仕様書第4編1.5.1表4.1.1.1による耐熱・耐火ケーブルとする。 建築設備定期検査業務基準2016年版 ((一財)日本建築設備・昇降機センター)の排煙風量の検査方法に準じる。
自動制御設備 ○1. システム構成その他 ○2. 計装用配線 ○3. 電動弁 ○4. 弁耐圧 ○5. その他	別図による。 電線及びEMケーブルは標準仕様書第4編1.5.1表4.1.1.1による。 屋外・屋内露出の電線は、図面に特記がなければ金属管配線とする。 天井内隠蔽の配線は、図面に特記がなければケーブル配線とする。 開閉状態の遠方表示用接点を ○設ける ○設けない。 MPa (1) 室内温湿度検出器等を2個以上併設する場合は、サーモケースを使用する。 (2) 電動機用電流計は延長目盛電流計とし、赤指針付きとする。
衛生器具設備 ○1. 衛生器具ユニット ○2. 身障者用洗弁 ●3. 大便器用便座 ○4. 注記板	別図による。 ※ センサー式 ○ タッチスイッチ式 ○ くつべら式押しボタン ※ 暖房便座(○ 脱臭機能付 ○ 擬音装置付) ○ 普通便座 ※ 温水洗浄便座: 加熱方式: ● 貯湯式 ○ 瞬間式 付加機能: ※ 節電機能 ※ 脱臭機能 ※ 温風乾燥機能 ● 擬音装置 ● リモコン 温水洗浄便座への給水は市水を接続する。 ● 設けない ○ 設ける(○ 陶器製 ○ 樹脂製) 対象器具は図示による。
給水設備 ○1. 量水器 ○2. 量水器 ●3. 弁類 ○4. 不凍水栓柱	既設 ○親メーター(※賞与品 ○買取り) (○現地表示式(直読式) ○遠隔表示式(○電文式 ○パルス式)) ○子メーター(○賞与品 ※買取り) 改設 ○親メーター(※賞与品 ○買取り) (○現地表示式(直読式) ○遠隔表示式(○電文式 ○パルス式)) ○子メーター(○賞与品 ※買取り) (○現地表示式(直読式) ○遠隔表示式(○電文式 ○パルス式)) 既設 親メーター用 ○水道事業者指定品 ○「標準図」量水器燃料 子メーター用 ○水道事業者指定品 ○「標準図」量水器燃料 改設 親メーター用 ○水道事業者指定品 ○「標準図」量水器燃料 子メーター用 ○水道事業者指定品 ○「標準図」量水器燃料 イ) 水道直結部分 ※10K ロ) その他部分 ※5K ハ) 呼び径65A以上の弁はバタフライ弁とする。 ニ) ステンレス鋼管に取付ける弁類はステンレス製とする。 ※化粧ケーシング(※アルミニウム合金製 ○合成樹脂製)

給水設備 ●5. 給水栓 ●6. 保温 ○7. 小形給水ポンプユニット ○8. 水槽 ○9. 壁埋込形散水栓ボックス ○10. 引込納付金等 ●11. その他	イ) 屋内(○一般水栓 ○耐寒水栓) 屋外(○耐寒水栓 ○一般水栓) ロ) 湯沸室、台所、厨房用水栓は泡沫式とする。 ハ) 耐寒水栓はJWWAの認証品とする。 イ) 屋外露出管(弁、フランジを含む)の保温は、標準仕様書第2編3.1.4表2.3.5.5.2.(ハ)と厚さは呼び径25mm以下は50mm、呼び径32mm以上は40mmとする。 ロ) 量水器内の保温 ※ 行う ○行わない (1) 自動交互並列運転とする。 (2) 24時間強制ローテーション機能: ※付加する ○付加しない ○8. 水槽 (1) FRP製タンクのタンク天板(点検用蓋を含む) ※ 複合板 ○ 複合板としての (2) タンク接続用配管のフレキシブル継手は合成ゴム製とし、水槽用鋼製架台は溶融亜鉛めっき仕上げとする。 (3) 吐水配管(受水槽)の給水用緊急遮断弁 ※ 設けない ○ 設ける (1) SUS製とし、鍵付とする。 ○要(○本工事 ※別途) ○不要 給水管の最小口径は20mmとする。ただし、器具接続部分を除く。 ●11. その他 ○1. 満水試験継手 ○2. 台所流し等の排水管 ○3. インパート材 ※ 樹脂製材(小口径材) ○コンクリート製材: ○ 国土交通省仕様材 ○ 頂部補強を施した市販重ね材 ○ 日本下水道協会規格材 ○4. ため樹 ○樹脂製材 ※コンクリート製材: ○ 国土交通省仕様材 ○ 頂部補強を施した市販重ね材 ○ 日本下水道協会規格材 樹脂製材(小口径材)は、プラスチック・マスマンホール協会及び日本下水道協会規格に準ずる。 雨排水用ため樹は、配管エルボによるトラップ材とする。 ○5. 樹脂製材 ○6. 雨水樹 ○7. グリース阻集器 ○8. 間接排水 ○9. 試験 (1) 排水管は満水試験を行い、衛生器具等の取付け完了後に通水試験を行う。 煙試験: ※ 行わない ○ 行う ○10. 放流納付金等 ○11. その他 ○要(○本工事 ※別途) ○不要 別途、工場製作の流しのトラップは別途工事とするが、接続は配管(硬質塩化ビニル管でもよい)とし、本工事とする。
排水設備 ○1. 弁類 ○2. 保温 ○3. 貯湯槽 ○4. 貯湯式電気温水器 ○5. 湯水混合栓	給水設備の当該事項による。 湯沸器の給排水管(二重管)の隠蔽部保温を行う。 (保温の種別は標準仕様書第2編3.1.5表2.3.5.5.2.(イ)・Ⅸとする) ステンレス鋼板製 ○ SUS304 ○ SUS304L ○ SUS316 ○ SUS316L ○ SUS444 (1) 週間タイマー: ※ 取付ける ○ 取付けない (2) 制御盤の節電機能: ○ 組み込む ○ 組み込まない 逆止弁機能: ※ 有 ○ 無し ※ シングルレバー式 ○ サーモスタット式 ○ 2バルブ式
消火設備 ○5. 屋外消火栓ボックス ○6. その他	既設 ○ 易操作性1号消火栓 ○ 2号消火栓 改設 ○ 易操作性1号消火栓 ○ 2号消火栓 ○ 広範囲型2号消火栓 ※10K 外面被覆鋼管の呼び径100A以下はねじ接合とする。 イ) 充水タンクの保温 既設 ○ 有 ○ 無 改設 ○ 要 ○ 不要 ロ) 消火配管の保温 既設 ○ 有 ○ 無 改設 ○ 要 ○ 不要 なお充水タンクの保温は標準仕様書第2編3.1.5表2.3.5.5.2 鋼板製タンクの項による。 なお消火配管の保温は標準仕様書第2編3.1.5表2.3.5.5.2 給水管の項による。 ハ) 屋外露出管については給水管に準ずる。 ● ステンレス製 ○ 鋼板製 (1) 連絡送水管に取付ける弁は16Kとする。 (2) その他の弁: ※ JIS10K ○ JIS20K
ガス設備 ○1. 親メーター ○2. 子メーター ○3. ガスボンベ ○4. ガス漏れ警報器 ○5. 埋設深さ ○6. 緊急遮断弁	○実測式 ○パルス式 ○賞与品 ○実測式 ○パルス式 ○買取り 賞与品(○50kg 本) イ) 集合装置 ○「標準図」液化石油ガス容器廻り配管要領による 本立て ロ) 転倒防止等 ○「標準図」液化石油ガス容器転倒防止施工要領 (○(a) ○(b)) ○容器固定具をGL+300に追加設置する。 ○本工事(図示の箇所に取付ける)(○分離形 ○一体形) ○別工事 外部出力端子 ○有 ○無 イ) 一般敷地内 (m以上) ロ) 敷地内車両通行部分(m以上) ※ 取付けない ○ 取付ける(ガス漏れ警報機と連動して作動するものとし、系統は図示による)
厨房機器設備 ○1. 熱調理器の熱源 ○2. 厨房機器類 ○3. 厨房システム ○4. 付属制御盤 ○5. 付属品(弁類)	既設 ○ガス ○電気 改設 ○ガス ○電気 イ) 仕様・性能等は図示による。機器の寸法は概略寸法とする。 ※ 厨房機器据付け要領は「標準図」厨房機器据付け要領による。 ※ ドライシステム ○ ウェットシステム ○ セミドライシステム 機器付属の制御盤は、製造者規格品とする。 JISB2011:2003又はJV同等性能品 ○ 5K ※ 10K

雨水利用設備 ○1. システム構成その他 ○2. 量水器 ○3. 弁類 ○1. 特記事項	別図による。 ○バルブ式 ○直読式 図面に特記なき場合は、JIS又はJV5Kとする。 ※ 図が別に定める仕様書による。 (1) 処理能力 対象人員 人 BOD濃度 mg/L BOD除去率 %以上 (2) 流入負荷 汚水量 m ³ /日 BOD濃度 mg/L (3) 処理方式 ○小規模合併処理 (告示区分第1の処理方式及びその他同等の能力を有するもの又は建築基準法施行令第35条1項の大庄屋認定) ○合併処理(告示区分第2、第3、第6の処理方式) (4) 主要構造 ○ユニット形(FRP製) ○現場施工形 設置スペース 約 L x W (5) 総電気容量 相 x V x kW (6) ばつ気槽用送風機 イ) 屋外に設置する送風機はカバー付とし、コンクリート基礎に設置する。 ロ) 送風機にはケーブル(ビニルケーブルタイヤケブル)を約 m付属する。 ハ) 送風機を2基設置する場合タイマーによる自動交互運転とする。 (7) 流入側 イ) 流入管径 設計GL- m ロ) 浄化槽本体への自然流下方式(必要な場合はポンプアップ方式とする) (8) 放流側 イ) 浄化槽本体よりの自然放流可能管径 設計GL- m ロ) 浄化槽本体よりの自然放流方式(必要な場合はポンプアップ方式とする) (9) 排水管及び排気管 構造上不要な場合は設けない。 (10) ポンプ (11) 制御盤 ○製造者標準品 ○標準仕様書による (○漏電 過負荷 満水警報等の一括故障表示用無電圧接点及び端子を設ける) (12) マンホール ○製造者標準品安全荷重(○5 ○15 ○50kN 以上とする) の「標準図」マンホールふた(OMHB OMHA OMHD) (13) 装置耐荷重 耐荷重はマンホール安全荷重による。 (14) 土工事 イ) 基礎杭 ○要(○本工事 ○別途) ○不要 ロ) 基礎コンクリート ○要(○本工事 ○別途) ○不要 ハ) 根切り ○本工事 ○別途 ニ) 埋戻し ○本工事 ○別途 ホ) 躯体(現場施工形の場合) ○本工事 ○別途 ヘ) 山留め ○要(○本工事 ○別途) ○不要 ト) 水替え(自然水位GL- m) ○要(○本工事 ○別途) ○不要 チ) 残土処分 ○構外搬出 ○敷き均し (15) 消毒剤 30日分を納入する。 (16) 水質表示等の提出 一定期間定常状態で使用後、放流水質等を記入した測定表を提出する。 (17) フローシート 合成樹脂製パネル(厚さ5mm以上、文字は影り込み)を取り付ける。 (18) 消泡装置 ノズル式又は消泡剤式とする。 ○アスベスト含有製品処理 ○本工事 ダクト及び配管のフランジパッキン及び配管エルボ・チーズ部の保温材の処理方法は以下による。撤去するフランジ部、エルボ・チーズ部に含まれる石綿を処分するため、フランジ、エルボ・チーズの前後を切断し、他のダクト・配管とは別に廃棄を行う。 ※ 配管、ダクト以外の解体方法は関連する官公署、石綿作業主任者などに確認し法令に従い適切に処理を行うこと。 アスベスト含有部材を撤去・取り外しを実施する場合の施工要領(参考)
浄化槽設備 ○1. システム構成その他 ○2. 量水器 ○3. 弁類 ○1. 特記事項	別図による。 ○バルブ式 ○直読式 図面に特記なき場合は、JIS又はJV5Kとする。 ※ 図が別に定める仕様書による。 (1) 処理能力 対象人員 人 BOD濃度 mg/L BOD除去率 %以上 (2) 流入負荷 汚水量 m ³ /日 BOD濃度 mg/L (3) 処理方式 ○小規模合併処理 (告示区分第1の処理方式及びその他同等の能力を有するもの又は建築基準法施行令第35条1項の大庄屋認定) ○合併処理(告示区分第2、第3、第6の処理方式) (4) 主要構造 ○ユニット形(FRP製) ○現場施工形 設置スペース 約 L x W (5) 総電気容量 相 x V x kW (6) ばつ気槽用送風機 イ) 屋外に設置する送風機はカバー付とし、コンクリート基礎に設置する。 ロ) 送風機にはケーブル(ビニルケーブルタイヤケブル)を約 m付属する。 ハ) 送風機を2基設置する場合タイマーによる自動交互運転とする。 (7) 流入側 イ) 流入管径 設計GL- m ロ) 浄化槽本体への自然流下方式(必要な場合はポンプアップ方式とする) (8) 放流側 イ) 浄化槽本体よりの自然放流可能管径 設計GL- m ロ) 浄化槽本体よりの自然放流方式(必要な場合はポンプアップ方式とする) (9) 排水管及び排気管 構造上不要な場合は設けない。 (10) ポンプ (11) 制御盤 ○製造者標準品 ○標準仕様書による (○漏電 過負荷 満水警報等の一括故障表示用無電圧接点及び端子を設ける) (12) マンホール ○製造者標準品安全荷重(○5 ○15 ○50kN 以上とする) の「標準図」マンホールふた(OMHB OMHA OMHD) (13) 装置耐荷重 耐荷重はマンホール安全荷重による。 (14) 土工事 イ) 基礎杭 ○要(○本工事 ○別途) ○不要 ロ) 基礎コンクリート ○要(○本工事 ○別途) ○不要 ハ) 根切り ○本工事 ○別途 ニ) 埋戻し ○本工事 ○別途 ホ) 躯体(現場施工形の場合) ○本工事 ○別途 ヘ) 山留め ○要(○本工事 ○別途) ○不要 ト) 水替え(自然水位GL- m) ○要(○本工事 ○別途) ○不要 チ) 残土処分 ○構外搬出 ○敷き均し (15) 消毒剤 30日分を納入する。 (16) 水質表示等の提出 一定期間定常状態で使用後、放流水質等を記入した測定表を提出する。 (17) フローシート 合成樹脂製パネル(厚さ5mm以上、文字は影り込み)を取り付ける。 (18) 消泡装置 ノズル式又は消泡剤式とする。 ○アスベスト含有製品処理 ○本工事 ダクト及び配管のフランジパッキン及び配管エルボ・チーズ部の保温材の処理方法は以下による。撤去するフランジ部、エルボ・チーズ部に含まれる石綿を処分するため、フランジ、エルボ・チーズの前後を切断し、他のダクト・配管とは別に廃棄を行う。 ※ 配管、ダクト以外の解体方法は関連する官公署、石綿作業主任者などに確認し法令に従い適切に処理を行うこと。 アスベスト含有部材を撤去・取り外しを実施する場合の施工要領(参考)

施工要領 石綿含有設備資材撤去リスト(記載例)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>寸法</th> <th>箇所</th> <th>備考(ダクト板厚)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">ダクトフランジ部</td> <td>200×150</td> <td>4</td> <td>(0.5)</td> </tr> <tr> <td>250×100</td> <td>4</td> <td>(0.8)</td> </tr> <tr> <td>300×150</td> <td>4</td> <td>(0.5)</td> </tr> <tr> <td>400×150</td> <td>2</td> <td>(0.5)</td> </tr> <tr> <td>500×150</td> <td>1</td> <td>(0.6)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">配管フランジ部</td> <td>300×150</td> <td>9</td> <td>(0.6)</td> </tr> <tr> <td>300×150</td> <td>2</td> <td>(0.5)</td> </tr> <tr> <td>550×250</td> <td>6</td> <td>(0.6)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">配管エルボ部</td> <td>80A</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>100A</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>150A</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">配管チーズ部</td> <td>80A</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>100A</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>150A</td> <td>2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※ ダクト及び配管フランジ部、配管エルボ部の撤去に先立ち、フランジ部は1箇所につき2箇所、エルボ部は1箇所につき3箇所切断する。	種類	寸法	箇所	備考(ダクト板厚)	ダクトフランジ部	200×150	4	(0.5)	250×100	4	(0.8)	300×150	4	(0.5)	400×150	2	(0.5)	500×150	1	(0.6)	配管フランジ部	300×150	9	(0.6)	300×150	2	(0.5)	550×250	6	(0.6)	配管エルボ部	80A	2		100A	2		150A	2		配管チーズ部	80A	2		100A	2		150A	2																																											
種類	寸法	箇所	備考(ダクト板厚)																																																																																										
ダクトフランジ部	200×150	4	(0.5)																																																																																										
	250×100	4	(0.8)																																																																																										
	300×150	4	(0.5)																																																																																										
	400×150	2	(0.5)																																																																																										
	500×150	1	(0.6)																																																																																										
配管フランジ部	300×150	9	(0.6)																																																																																										
	300×150	2	(0.5)																																																																																										
	550×250	6	(0.6)																																																																																										
配管エルボ部	80A	2																																																																																											
	100A	2																																																																																											
	150A	2																																																																																											
配管チーズ部	80A	2																																																																																											
	100A	2																																																																																											
	150A	2																																																																																											
配管材料	<table border="1"> <thead> <tr> <th>通用</th> <th>配管種別</th> <th>新設配管材料</th> <th>既設配管材料(改修)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○</td> <td>冷温水管</td> <td>※ 配管用炭素鋼管(白) ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>膨張管</td> <td>※ 配管用炭素鋼管(白) ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>空気抜き管</td> <td>※ 配管用炭素鋼管(白) ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>冷却水管</td> <td>※ 配管用炭素鋼管(白) ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>蒸気給気管</td> <td>※ 配管用炭素鋼管(黒) ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>蒸気還管</td> <td>※ 圧力配管用炭素鋼管(STPG370(黒管Sch40)) ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>油管</td> <td>※ 配管用炭素鋼管(黒) ※ (地中配管)ポリエチレン被覆鋼管 ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>油通気管</td> <td>※ 配管用炭素鋼管(黒) ※ (地中配管)ポリエチレン被覆鋼管 ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ブライン管</td> <td>※ 配管用炭素鋼管(黒) ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>●</td> <td>冷媒管</td> <td>※ 冷媒用断熱材被覆鋼管 ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>●</td> <td>空調用排水管</td> <td>※ 配管用炭素鋼管(白) ● 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>給水管</td> <td>※ 水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管(●PB OPD) ○ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管(OVB OVD) ○ ステンレス鋼管 ※ (屋外地中配管)水道用ポリエチレン層管 ○ (屋外地中配管)水道用ポリエチレン層管 ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>給湯管</td> <td>○ ステンレス鋼管 ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>消火栓管</td> <td>※ 配管用炭素鋼管(白) ※ (地中配管)外面被覆鋼管(VS) ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>連絡送水管</td> <td>※ 圧力配管用炭素鋼管(STPG370(白Sch40)) ※ (地中配管)外面被覆鋼管(VS) ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>汚水排水管</td> <td>※ 耐火二層管 (○天井内、パイプシャワー及び空腔壁中 ○) ● 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) (※最下階の床下・ピット内 ○) ○ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 (※露出配管 ○) ○ リサイクルポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP) (※最下階の床下・ピット内 ○) ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>雑排水管</td> <td>※ 耐火二層管 (○天井内、パイプシャワー及び空腔壁中 ○) ● 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) (※最下階の床下・ピット内 ○) ○ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 (※露出配管 ○) ○ 配管用炭素鋼管(白) ※ リサイクルポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP) (※最下階の床下・ピット内 ○) ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>排水通気管</td> <td>※ 配管用炭素鋼管(白) ● 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ○ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP) ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>屋外排水管</td> <td>※ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管(RS-VU) ○ 硬質ポリ塩化ビニル管(※ VU ○ VP) ○ 排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管(REP-VU) ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ガス管</td> <td>※ 配管用炭素鋼管(白) ○ ポリエチレン被覆鋼管(PLS)(地中配管) ○ ガス用ポリエチレン管(地中配管) ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>液化石油ガス管</td> <td>※ 配管用炭素鋼管(白) ○ ポリエチレン被覆鋼管(PLS)(地中配管) ○ ガス用ポリエチレン管(地中配管) ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	通用	配管種別	新設配管材料	既設配管材料(改修)	○	冷温水管	※ 配管用炭素鋼管(白) ○		○	膨張管	※ 配管用炭素鋼管(白) ○		○	空気抜き管	※ 配管用炭素鋼管(白) ○		○	冷却水管	※ 配管用炭素鋼管(白) ○		○	蒸気給気管	※ 配管用炭素鋼管(黒) ○		○	蒸気還管	※ 圧力配管用炭素鋼管(STPG370(黒管Sch40)) ○		○	油管	※ 配管用炭素鋼管(黒) ※ (地中配管)ポリエチレン被覆鋼管 ○		○	油通気管	※ 配管用炭素鋼管(黒) ※ (地中配管)ポリエチレン被覆鋼管 ○		○	ブライン管	※ 配管用炭素鋼管(黒) ○		●	冷媒管	※ 冷媒用断熱材被覆鋼管 ○		●	空調用排水管	※ 配管用炭素鋼管(白) ● 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ○		○	給水管	※ 水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管(●PB OPD) ○ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管(OVB OVD) ○ ステンレス鋼管 ※ (屋外地中配管)水道用ポリエチレン層管 ○ (屋外地中配管)水道用ポリエチレン層管 ○		○	給湯管	○ ステンレス鋼管 ○		○	消火栓管	※ 配管用炭素鋼管(白) ※ (地中配管)外面被覆鋼管(VS) ○		○	連絡送水管	※ 圧力配管用炭素鋼管(STPG370(白Sch40)) ※ (地中配管)外面被覆鋼管(VS) ○		○	汚水排水管	※ 耐火二層管 (○天井内、パイプシャワー及び空腔壁中 ○) ● 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) (※最下階の床下・ピット内 ○) ○ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 (※露出配管 ○) ○ リサイクルポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP) (※最下階の床下・ピット内 ○) ○		○	雑排水管	※ 耐火二層管 (○天井内、パイプシャワー及び空腔壁中 ○) ● 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) (※最下階の床下・ピット内 ○) ○ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 (※露出配管 ○) ○ 配管用炭素鋼管(白) ※ リサイクルポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP) (※最下階の床下・ピット内 ○) ○		○	排水通気管	※ 配管用炭素鋼管(白) ● 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ○ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP) ○		○	屋外排水管	※ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管(RS-VU) ○ 硬質ポリ塩化ビニル管(※ VU ○ VP) ○ 排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管(REP-VU) ○		○	ガス管	※ 配管用炭素鋼管(白) ○ ポリエチレン被覆鋼管(PLS)(地中配管) ○ ガス用ポリエチレン管(地中配管) ○		○	液化石油ガス管	※ 配管用炭素鋼管(白) ○ ポリエチレン被覆鋼管(PLS)(地中配管) ○ ガス用ポリエチレン管(地中配管) ○		○			
通用	配管種別	新設配管材料	既設配管材料(改修)																																																																																										
○	冷温水管	※ 配管用炭素鋼管(白) ○																																																																																											
○	膨張管	※ 配管用炭素鋼管(白) ○																																																																																											
○	空気抜き管	※ 配管用炭素鋼管(白) ○																																																																																											
○	冷却水管	※ 配管用炭素鋼管(白) ○																																																																																											
○	蒸気給気管	※ 配管用炭素鋼管(黒) ○																																																																																											
○	蒸気還管	※ 圧力配管用炭素鋼管(STPG370(黒管Sch40)) ○																																																																																											
○	油管	※ 配管用炭素鋼管(黒) ※ (地中配管)ポリエチレン被覆鋼管 ○																																																																																											
○	油通気管	※ 配管用炭素鋼管(黒) ※ (地中配管)ポリエチレン被覆鋼管 ○																																																																																											
○	ブライン管	※ 配管用炭素鋼管(黒) ○																																																																																											
●	冷媒管	※ 冷媒用断熱材被覆鋼管 ○																																																																																											
●	空調用排水管	※ 配管用炭素鋼管(白) ● 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ○																																																																																											
○	給水管	※ 水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管(●PB OPD) ○ 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管(OVB OVD) ○ ステンレス鋼管 ※ (屋外地中配管)水道用ポリエチレン層管 ○ (屋外地中配管)水道用ポリエチレン層管 ○																																																																																											
○	給湯管	○ ステンレス鋼管 ○																																																																																											
○	消火栓管	※ 配管用炭素鋼管(白) ※ (地中配管)外面被覆鋼管(VS) ○																																																																																											
○	連絡送水管	※ 圧力配管用炭素鋼管(STPG370(白Sch40)) ※ (地中配管)外面被覆鋼管(VS) ○																																																																																											
○	汚水排水管	※ 耐火二層管 (○天井内、パイプシャワー及び空腔壁中 ○) ● 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) (※最下階の床下・ピット内 ○) ○ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 (※露出配管 ○) ○ リサイクルポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP) (※最下階の床下・ピット内 ○) ○																																																																																											
○	雑排水管	※ 耐火二層管 (○天井内、パイプシャワー及び空腔壁中 ○) ● 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) (※最下階の床下・ピット内 ○) ○ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 (※露出配管 ○) ○ 配管用炭素鋼管(白) ※ リサイクルポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP) (※最下階の床下・ピット内 ○) ○																																																																																											
○	排水通気管	※ 配管用炭素鋼管(白) ● 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ○ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP) ○																																																																																											
○	屋外排水管	※ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管(RS-VU) ○ 硬質ポリ塩化ビニル管(※ VU ○ VP) ○ 排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管(REP-VU) ○																																																																																											
○	ガス管	※ 配管用炭素鋼管(白) ○ ポリエチレン被覆鋼管(PLS)(地中配管) ○ ガス用ポリエチレン管(地中配管) ○																																																																																											
○	液化石油ガス管	※ 配管用炭素鋼管(白) ○ ポリエチレン被覆鋼管(PLS)(地中配管) ○ ガス用ポリエチレン管(地中配管) ○																																																																																											
○																																																																																													

工事区分表 (他工事との取合い等)

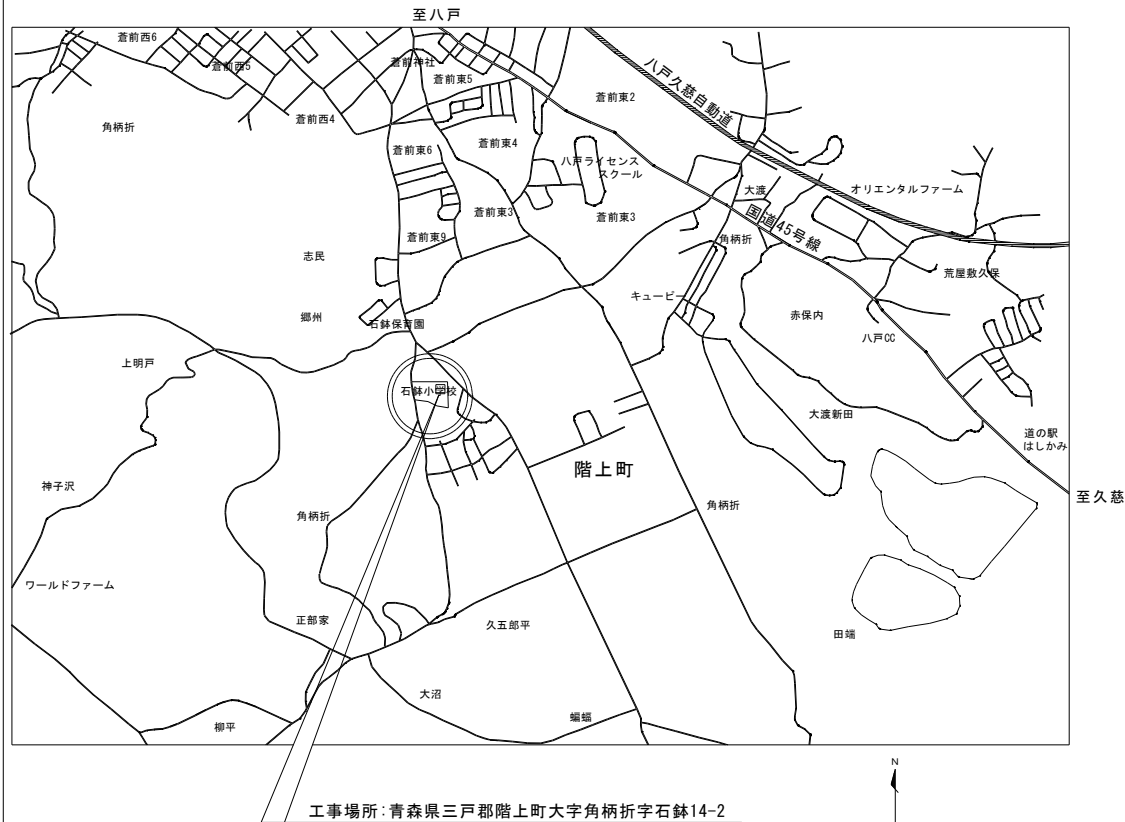
区分は○印を適用する。

A: 建築工事 E: 電気設備工事 M: 機械設備工事 EV: エレベーター設備工事

※複数箇所に○印がある場合は、それぞれ必要とする工事で実施する。

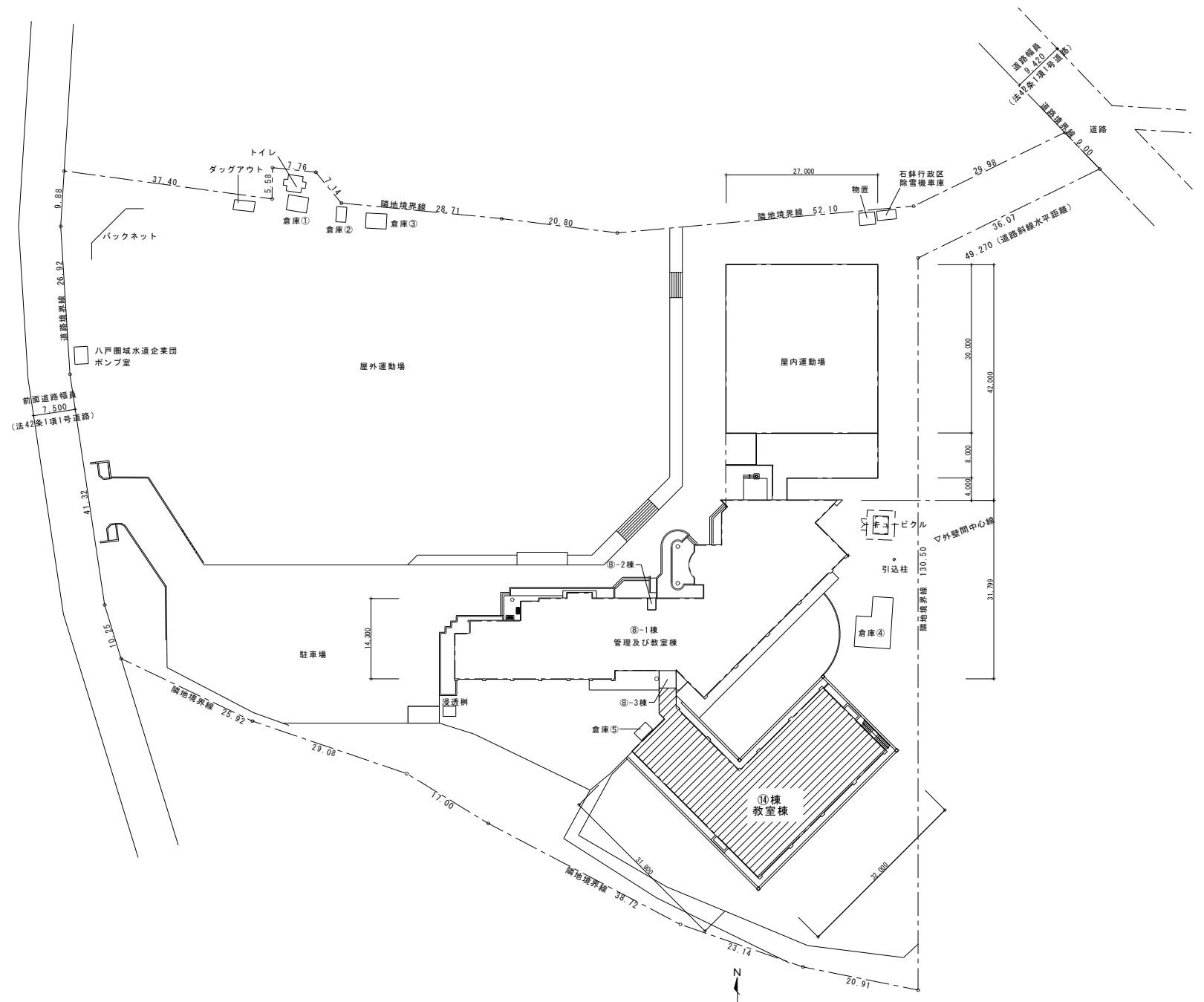
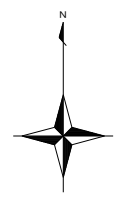
項目		A	E	M	EV	備考	項目		A	E	M	EV	備考	項目		A	E	M	EV	備考										
躯体関係																														
1. RC造 (梁・壁・床) の貫通孔・開口部	貫通孔のスリーブ材及び取付け	○	○	○	○		4. 昇降機関連 (続き)	E/V警報盤又はE/V監視盤までの緊急地震速報受信用の配管工事	○					9. フリーアクセスフロア	コンセント		○				屋外排水設備・外構									
	補強を要する型枠材及び取付け	○						E/V制御盤からE/V監視盤又は警報盤までの制御及びインターホンの配管・配線工事				○				床パネルの切り込み加工	○						1. 雨水	屋外雨水排水設備	○					
	補強を要しない型枠材及び取付け	○	○	○	○			動力計測用電力計から自動制御盤までの配管・配線工事				○				10. 自動扉電動シャッターまわり	防火戸の自動開閉装置		○						樹及び樹ふた	○				
	貫通孔・開口部の墨出し	○	○	○	○												上部電動シャッター本体・制御盤手動開閉装置・ヒューズ装置	○							マンホールの化粧上ふたの表面仕上げ	○				
	貫通孔・開口部の補強	○															排煙窓本体・自動開閉装置	○							雨水公設樹	○				公共下水道が分流式の場合
スリーブ・型枠の穴埋め	○	○	○	○		防火区画、防煙区画	5. その他	トラフ・ビット類 (湧水・汚水) RC造各種水槽	○						防煙たれ壁本体・駆動装置	○						2. 雑排水・汚水電力・通信	屋外雑排水及び屋外汚水排水設備			○				
2. S・SRC造の梁貫通孔	S・SRC造貫通鋼管スリーブ・補強	○						同上用防水・ふた・マンホールタラップ等	○						上部電動シャッター・排煙窓及び防煙たれ壁連動制御装置の感知器		○						樹及び樹ふた			○				
	使用されたスリーブの穴埋め	○	○	○	○	防火区画、防煙区画		雷保護設備・同接地工事		○					自動扉の本体・駆動装置・検出装置 (センサー)	○							ハンドホールの化粧用上ふたの表面仕上げ	○						
	予備スリーブの穴埋め	○	○	○	○	防火区画、防煙区画		ALC板の壁開口・補強	○						自動扉の手元電源スイッチ		○						マンホールの化粧用上ふたの表面仕上げ	○						
3. 設備機器の基礎	屋内の基礎 (建築設計図に記入のあるもの)	○						厨房排水溝	○						電気錠の本体・扉内配線	○							排水公設樹			○		公共下水道が合流式の場合		
	屋内の基礎 (設備設計図に記入のあるもの)		○	○				厨房グリース阻集器				○			電気錠の扉までの配管及び配線		○													
	屋外・屋上の基礎	○						オイルサービスタンクの防油堤	○						自動閉鎖装置を取りつける防火戸の切り込み補強及びドアクローザー、フロアヒンジ	○														
	屋上基礎で押さえコンにアンカーしない軽微なもの		○	○				フリーアクセスフロア内の防水堤	○						自動扉・電動シャッターからセンサー (附属スイッチ) への配管・配線工事	○														
	機器取付け用アンカー・架台		○	○				既設埋設配管配線調査 (X線探査含む)	○	○	○				自動扉・電動シャッター本体までの配管・配線		○													
	屋内受水タンク用の基礎	○						仕上げ関係																						
	太陽電池アレイ用架台 (支持金物)	○	○				AとEの区分は図示	1. 計量鉄骨天井下地・壁下地	補強を要するボードの切り込み及び下地の補強	○						2重ビット及びトレンチのマンホールふた	○													
4. 昇降機関連	機械室・昇降路の躯体	○						補強を要しないボードの切り込み		○	○				機器搬入用フック・ビーム	○														
	機械室の床開口	○						開口部の墨出し			○	○			チェーンブロック		○	○												
	機器室の床配管ビット・ふた	○						2. 可動間仕切り	切込み及び補強	○					化粧マンホール上ふたの表面仕上げ	○														
	機械室の上げ床コンクリート打設・仕上	○						3. つりボルト及びインサート	設備機器・器具・配管・配線・ダクト用		○	○				点検口 (天井・床下)	○													
	機械室・昇降路内換気設備			○				4. 外壁まわり	外壁ガラリ及びダクト接続用フランジ	○						排煙口等の天井仕上材の取付け	○													
	巻上機周囲のチェッカープレート敷				○				ウエザーカバー、ベントキャップ (シール共)				○			消火器BOX設置工事	○													
	昇降路内ピット防水・集水樹	○				○			換気扇 (取付枠共)				○			誘導標識 (誘導灯を除く)	○													
	点検用タラップ					○			サッシパネル開口	○			○			煙突底部排水目皿・排水管	○													
	各階出入口穴あけ・同補強	○							5. 湯沸室まわり	流し台・つり戸棚・水切り棚・コンロ台	○					くつふきマット・玄関マット・自動扉マット部床排水金物 (目皿共)・排水管	○													
	三方枠取付・枠廻り埋戻し・同補修					○			フード (標準詳細図のもの、シール共)	○					くつ洗い流し部排水金物・排水管	○														
	昇降路がS造の時の出入口扉・三方枠及び幕板の固定用鋼材	○							ミニキッチン (照明、水栓含む)	○						ルーフトレン	○													
	出入口扉・三方枠及び幕板					○			6. 浴室まわり	浴室ユニット、複合浴室ユニット、シャワーユニット				○			雨水流入配管	○												
	昇降路の中間ビーム、ブラケット、レールブラケット支持柱、他昇降路内の鋼製部材一式					○			既製浴槽 (ふたを含む)				○			雨水利用設備集水管				○										
	昇降路がS造の時の中間ビーム及びブラケットの受けピース	○							浴室及び便所の床排水金物				○				屋上緑化	○												
	機械室大梁又は昇降路内にフックの取付 (フックを含む)	○							7. 便所まわり	洗面カウンター	○						ポンプ及びポンプアップ配管				○									
ホール押印・インジケータ・銅素などの壁開口	○							鏡 (規格寸法のみ)				○																		
点検用コンセント・煙感知器		○						衛生器具ユニット				○																		
E/V制御盤までの動力・照明用電源、アース、火災時管制運転用信号、非常用発電機管制運転用信号、拡声設備 (館内放送用) 配管・配線工事			○					手すり、背もたれ	○																					
E/V警報盤又はE/V監視盤からエレベーター内監視カメラまでの配管・配線工事					○	監視カメラ含む																								
監視カメラ用の監視装置からE/V警報盤又はE/V監視装置までの配管・配線工事	○					電気設備のモニター装置に映像を表示する場合				○																				
E/V警報盤又はE/V監視盤までの保守遠隔監視用 (電話回線) の配管工事	○							8. 事務室まわり	ファンコイルカバー				○																	
<p>この工事区分表は、建築工事 (A)、電気設備工事 (E)、機械設備工事 (M)、エレベーター設備工事 (EV) といった施工上密接に関連する各工事において、材料や作業がどの工事に含まれているかを明確にするために共通事項として添付しているものである。よって、本工事の設計図書に記載されていない、工事範囲外の項目も含んでおり、本工事の具体的な工事内容を示すものではないことに留意すること。</p>																														



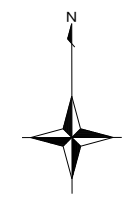


工事場所：青森県三戸郡階上町大字角柄折字石鉢14-2

案内図 S=NON SCALE



配置図 S=1/500



: 申請工事範囲を示す

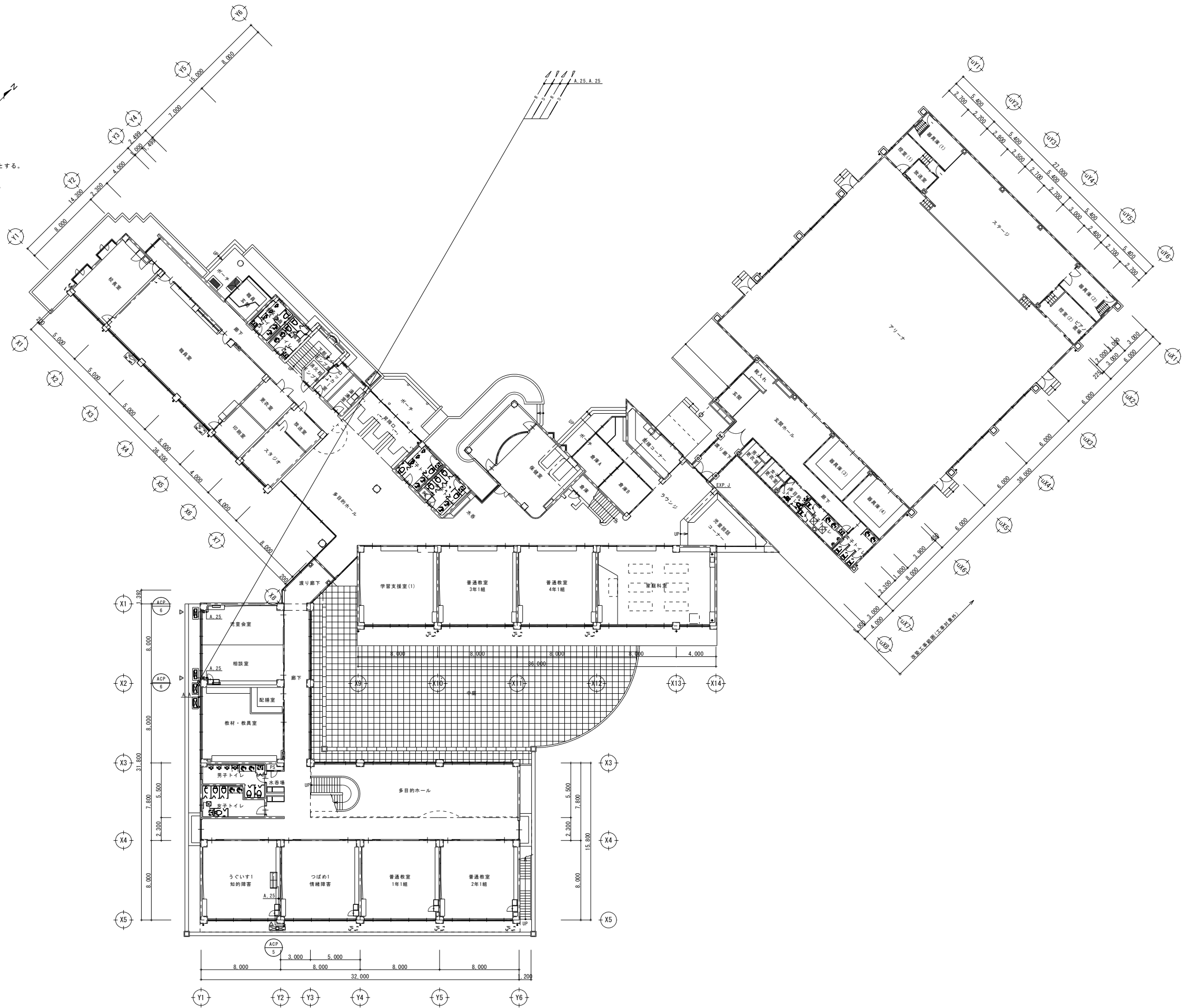
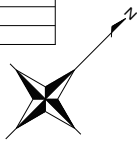
空調機器表 (台様)									
記号	機器名	仕様	消費電力			台数	設置場所・系統		備考
			φ	V	W (kW)				
ACP-3	空冷式ヒートポンプ	型式 シングルタイプ・天吊り形	3	200		2	⑥棟	2階 会議室	室外機基礎 (建築工事)
	パッケージ形空気調和機	冷房能力 14.0 kW 暖房能力 16.0 kW (冷房)							室外機電源供給 (電気工事)
		電気容量 圧縮機 (3.50 kW) (暖房)							室内機電源供給 (電気工事)
		送風機 室内: 0.160 kW、室外: 0.20 kW (暖房最大)							(6.84)
		付属品 ワイヤードリモコン、他一式							
		室外機転倒防止金具 (N=2) (φ9.52×φ15.88)							
ACP-4	空冷式ヒートポンプ	型式 シングルタイプ・天吊り形	3	200		1	⑥棟	2階 普通教室6年1組	室外機電源供給 (電気工事)
	パッケージ形空気調和機	冷房能力 12.5 kW 暖房能力 14.0 kW (冷房)							室内機電源供給 (電気工事)
		電気容量 圧縮機 (3.00 kW) (暖房)							(3.80)
		送風機 室内: 0.160 kW、室外: 0.20 kW (暖房最大)							(4.58)
		付属品 ワイヤードリモコン、他一式							
		室外機転倒防止金具 (N=2) (φ9.52×φ15.88)							
ACP-5	空冷式ヒートポンプ	型式 シングルタイプ・天吊り形	3	200		1	⑥棟	1階 うぐいす1組の障害	室外機電源供給 (電気工事)
	パッケージ形空気調和機	冷房能力 7.1 kW 暖房能力 8.0 kW (冷房)							室内機電源供給 (電気工事)
		電気容量 圧縮機 (1.60 kW) (暖房)							(2.41)
		送風機 室内: 0.095 kW、室外: 0.060 kW (暖房最大)							(2.86)
		付属品 ワイヤードリモコン、他一式							
		室外機転倒防止金具 (N=2) (φ9.52×φ15.88)							
ACP-6	空冷式ヒートポンプ	型式 シングルタイプ・壁掛付形	3	200		1	⑥棟	1階 児童会室	室外機基礎 (建築工事)
	パッケージ形空気調和機	冷房能力 7.1 kW 暖房能力 8.0 kW (冷房)							室内機電源供給 (電気工事)
		電気容量 圧縮機 (1.60 kW) (暖房)							(2.17)
		送風機 室内: 0.057 kW、室外: 0.06 kW (暖房最大)							(2.90)
		付属品 ワイヤードリモコン、他一式							
		室外機転倒防止金具 (N=2) (φ9.52×φ15.88)							
	室外機設置用部材	型式 床置銅製架台 (溶融亜鉛メッキ、防振ゴム、1000L×300H)				1	⑥棟	1階 うぐいす1組の障害	
	(ACP-3・ACP-5・ACP-6)					2	⑥棟	2階 会議室	
						1	⑥棟	1階 児童会室	
						1	⑥棟	1階 相談室	
	室外機設置用部材	型式 多目的支持台 (600L×100H、ポルトセット)				1	⑥棟	2階 普通教室6年1組	
	(ACP-4)								



冷房配管リスト		
記号	管サイズ (液管×ガス管)	備考
A	Cu φ9.52 × φ15.88	
B	Cu φ6.35 × φ9.52	

穴明補修リスト (機械はつり) △: 穴明補修部分		
適用	数量	備考
125mm × 150t	3	鉄筋挿入

- ※ 1. 室内機、室外機間の制御用の配線 (EM-CEES 1.25 20) は本工事とする。
- ※ 2. リモコン (ワイヤード) の取付及び配線は電気工事とする。
- ※ 3. 屋外露出冷媒配管は化粧ダクト (樹脂製: SD-140) 仕上げとする。
- ※ 4. ドレンは屋外放流とする。



1階平面図 S=1/200



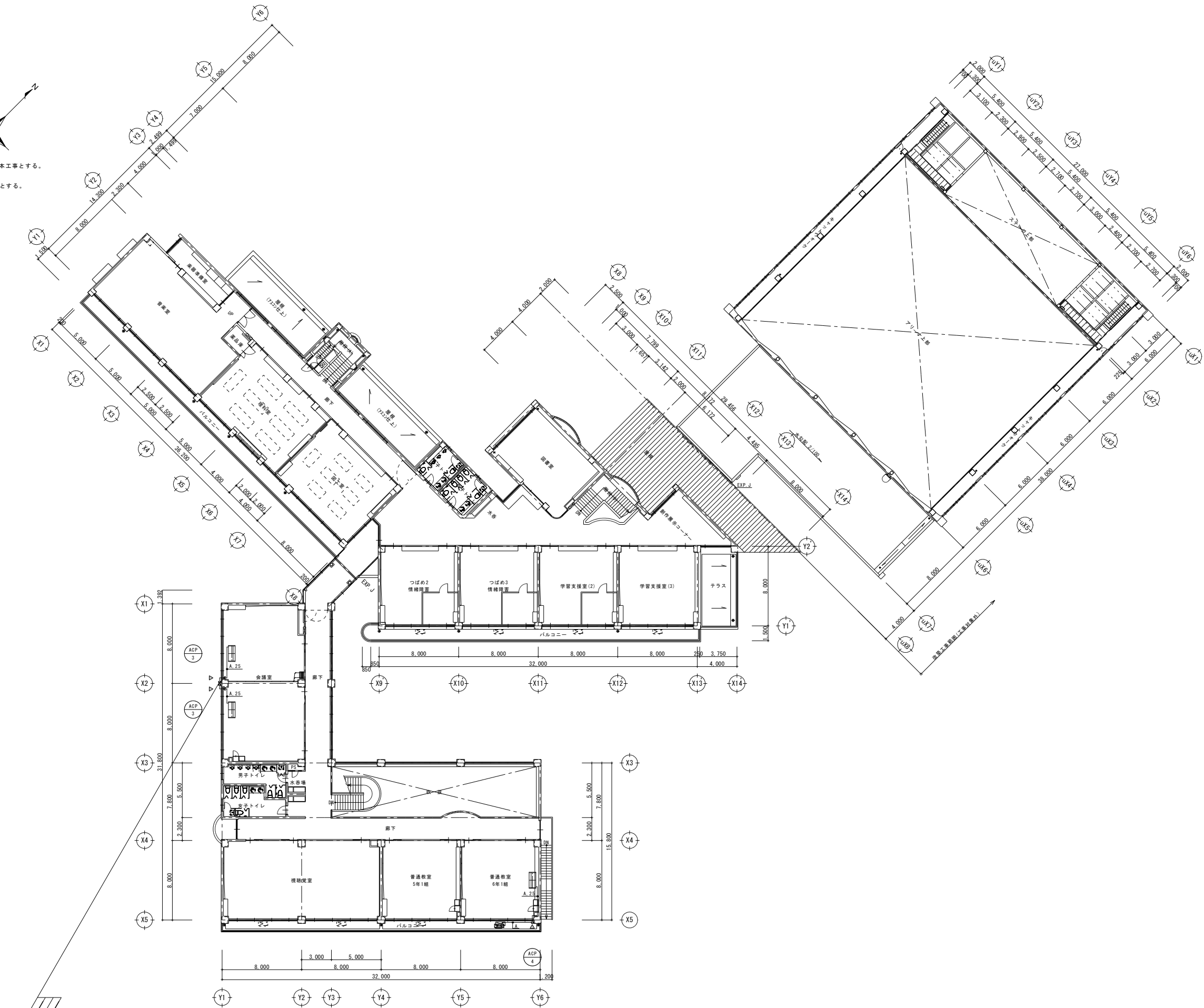
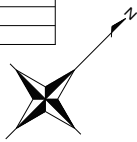
特記	凡例

図名	図号	縮尺	作成	承認
冷房設備 1階平面図	A1 S=1:200 A3 S=1:400			

冷媒管リスト		
記号	管サイズ (液管×ガス管)	備考
A	Cu φ9.52 × φ15.88	
B	Cu φ6.35 × φ9.52	

穴明補修リスト (機械はつり) △: 穴明補修部分		
適用	数量	備考
125mm × 150t	3	鉄筋探査共

- ※ 1. 室内機、室外機間の制御用の配線 (EM-CEES 1.25 20) は本工事とする。
- ※ 2. リモコン (ワイヤード) の取付及び配線は電気工事とする。
- ※ 3. 屋外露出冷媒配管は化粧ダクト (樹脂製: SD-140) 仕上げとする。
- ※ 4. ドレンは屋外放流とする。



2階平面図 S=1/200